

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年5月27日
【事業年度】	第16期（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）
【会社名】	ジェイドグループ株式会社
【英訳名】	JADE GROUP, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田中 裕輔
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区元代々木町30番13号
【電話番号】	03-5465-8022（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役兼管理本部ディレクター 高志 成俊
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区元代々木町30番13号
【電話番号】	03-5465-8022（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役兼管理本部ディレクター 高志 成俊
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期
決算年月	2022年2月	2023年2月	2024年2月	2025年2月	2026年2月
売上高 (千円)	-	10,464,483	13,356,170	19,231,316	19,441,498
経常利益 (千円)	-	963,944	1,705,344	1,551,117	2,561,694
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	-	1,258,432	1,001,796	565,050	1,570,933
包括利益 (千円)	-	1,286,400	1,114,603	649,000	1,625,391
純資産額 (千円)	-	5,933,881	6,407,427	6,392,885	8,560,767
総資産額 (千円)	-	9,972,209	11,782,314	12,121,778	15,586,177
1株当たり純資産額 (円)	-	527.10	578.64	555.70	725.64
1株当たり当期純利益 (円)	-	112.17	91.78	55.10	154.62
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	110.62	88.32	52.86	151.61
自己資本比率 (%)	-	58.9	52.9	45.2	48.2
自己資本利益率 (%)	-	21.4	16.6	9.7	24.2
株価収益率 (倍)	-	8.92	22.99	25.08	11.03
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	1,361,450	814,529	2,938,912	1,763,190
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	1,553,792	3,567,005	1,304,044	1,362,848
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	533,224	948,971	3,069,006	489,767
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	-	3,611,781	1,809,197	2,993,436	2,934,837
従業員数 (人)	-	155	163	241	336
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(369)	(367)	(398)	(716)

(注) 1. 当社は、第12期については、連結財務諸表を作成していないため、記載をしておりません。

2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー含む)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第13期の期首から適用しており、第13期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次		第12期	第13期	第14期	第15期	第16期
決算年月		2022年 2月	2023年 2月	2024年 2月	2025年 2月	2026年 2月
売上高	(千円)	9,875,834	9,316,077	9,029,408	8,254,904	7,953,099
経常利益	(千円)	852,539	837,369	1,195,322	602,027	1,258,899
当期純利益	(千円)	604,516	1,204,143	782,998	411,734	904,013
資本金	(千円)	1,337,258	50,000	50,000	50,000	50,000
発行済株式総数 普通株式	(株)	11,487,360	11,487,360	11,487,360	11,487,360	11,487,360
純資産額	(千円)	4,750,078	5,817,624	5,959,659	5,052,107	6,426,570
総資産額	(千円)	6,973,141	8,215,333	9,759,230	10,544,944	13,768,893
1株当たり純資産額	(円)	420.82	522.23	553.27	512.42	620.10
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	(円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	30.00 (-)
1株当たり当期純利益	(円)	53.42	107.33	71.73	40.15	88.98
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益	(円)	51.87	105.85	69.03	38.51	87.25
自己資本比率	(%)	68.1	70.8	61.0	47.9	46.7
自己資本利益率	(%)	12.7	22.8	13.3	7.5	15.8
株価収益率	(倍)	17.80	9.32	29.42	34.42	19.17
配当性向	(%)	-	-	-	-	33.7
営業活動によるキャッシュ・ フロー	(千円)	1,159,836	-	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・ フロー	(千円)	506,308	-	-	-	-
財務活動によるキャッシュ・ フロー	(千円)	224,678	-	-	-	-
現金及び現金同等物の期末残 高	(千円)	3,270,899	-	-	-	-
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(人)	135 (345)	119 (358)	125 (349)	140 (373)	164 (406)
株主総利回り (比較指標：東証グロース市 場250指数)	(%) (%)	47.1 (59.8)	49.5 (61.7)	104.0 (63.6)	68.3 (53.8)	85.1 (64.1)
最高株価	(円)	2,419	1,350	2,155	2,828	1,850
最低株価	(円)	922	890	975	1,175	962

(注) 1. 配当性向については、第12期、第13期、第14期及び第15期については配当を実施しておりませんので、記載していません。

2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー含む)は、年間の平均人員を( )外数で記載してあります。

3. 第13期、第14期、第15期及び第16期は連結財務諸表を作成しているため、第13期、第14期、第15期及び第16期の営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載していません。

4. 最高株価及び最低株価は2022年4月3日以前は東京証券取引所マザーズ市場におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所グロース市場におけるものであります。

5. 当社は東京証券取引所マザーズ市場に上場しておりましたが、2022年4月4日付の東京証券取引所の市場区分の見直しに伴い、同日以降の上場金融商品取引所名は、東京証券取引所グロース市場となっております。

6. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第13期の期首から適用しており、第13期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2【沿革】

年月	事項
2010年10月	「送料無料」「返品無料」などを取り入れた「顧客サービス至上主義のECサイト事業」の展開を目的に東京都港区赤坂において、資本金3,800万円で株式会社ジェイドを設立
2010年11月	東京都渋谷区恵比寿に本社移転
2010年11月	埼玉県三郷市に物流拠点を設立
2011年2月	無料で試着できる、靴の通販サイト「LOCONDO.jp」サービスを開始
2011年8月	「LOCONDO.jp」において、バッグの取扱いを開始
2011年11月	東京都港区赤坂に本社移転
2012年4月	東京都江東区潮見に物流拠点を移転
2012年7月	プラットフォームサービス第一弾として、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドの自社公式EC支援「BOEM (Brand's Official E-commerce Management)」を開始
2012年8月	株式会社ロコンドに商号変更
2013年4月	「LOCONDO.jp」において、アパレル(洋服)の取扱いを開始
2013年10月	デロイト トウシュ トーマツ リミテッド 日本テクノロジーFast50において、第1位を受賞
2013年12月	デロイト アジア太平洋地域テクノロジー Fast50において、アジア太平洋地域内で第3位を受賞
2014年4月	アウトレットサイト「LOCOLET」オープン
2014年9月	東京都江東区南砂に物流拠点「ロコポート」を移転 東京都渋谷区元代々木町に本社移転
2015年4月	プラットフォームサービス第二弾として、株式会社アルペンに「店舗欠品ゼロ」プラットフォーム「LOCOCHOC」サービスの開始
2015年8月	プラットフォームサービス第三弾として、ルコライン・ジャパン株式会社に倉庫機能を一律で担う、「e-3PL」サービスの開始
2015年8月	ECサービス第二弾として、「楽天市場(1)」に「LOCOMALL」を出店
2015年10月	「Yahoo!ショッピング(2)」に「LOCOMALL」を出店
2016年3月	スマホで使える、当社内製の「WMS(在庫管理システム)」の運用を開始
2016年11月	スペイン発のグローバルファストファッションブランド、MANGOとのオンライン(自社公式EC含む)及びリアル店舗における、国内独占フランチャイズ契約を締結
2017年1月	「LOCONDO.jp」iPhoneアプリ リリース
2017年3月	東京証券取引所マザーズ市場上場
2017年7月	リアル店舗の売上、在庫をECと一元管理する「LOCOPOS」サービス開始
2017年8月	ユーザーニーズに対応しながら物流業界の課題を配送会社とともに解決していく配送サービスプラン「ファーストクラス便」「急ぎません。便」を導入
2018年3月	「LOCONDO.jp」Androidアプリ リリース
2018年10月	Misuzu & Co.株式会社を子会社化
2019年3月	株式会社モバコレを子会社化
2019年6月	株式会社モバコレを吸収合併
2020年3月	Misuzu & Co.株式会社を吸収合併
2020年4月	D2Cブランドの取扱いを開始
2020年5月	千葉県八千代市に物流拠点「ロコポート」を移転
2020年7月	株式会社Fashionwalkerを子会社化
2020年9月	株式会社Fashionwalkerを吸収合併し、「FASHIONWALKER」の運営を開始
2021年7月	株式会社フェアブレイを子会社化
2021年9月	株式会社フェアブレイを吸収合併し、「SPORTS WEB SHOPPERS」の運営を開始
2022年1月	株式会社デファクトスタンダードが運営するファッション通販サイト wajaを吸収分割
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所のマザーズ市場からグロース市場に移行
2022年6月	RBKJ株式会社を設立
2022年10月	RBKJ株式会社が、アディダス ジャパン株式会社より日本国内のリーボック事業の一部を譲り受け
2023年6月	ジェイドグループ株式会社に商号変更
2024年1月	TCB株式会社の株式取得
2024年2月	ブランドリ株式会社を子会社化
2024年3月	マガシーク株式会社を子会社化
2024年3月	株式会社FASCINATEを子会社化

年月	事項
2024年 5月	ブランデリ株式会社を吸収合併
2025年 3月	中間持株会社としてANBUR LEAGUE株式会社を設立
2025年 3月	ANBUR LEAGUE株式会社が株式会社マルタミを子会社化
2025年 3月	ANBUR LEAGUE株式会社が株式会社ブルーシンシアを子会社化
2025年 6月	ARIGATO株式会社を子会社化
2025年 6月	株式会社FASCINATEが株式会社マルタミを吸収合併
2025年12月	株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスを子会社化

- 1 . 楽天株式会社が主な事業主体であるインターネットショッピングモールであります。
- 2 . ヤフー株式会社が主な事業主体であるインターネットショッピングモールであります。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、「HAPPY FOR ALL」という経営理念の下、「自宅で試着、気軽に返品」できる、靴とファッションの通販サイト、「LOCONDO.jp」を軸とする「ECモール事業」、また、ECモール事業で構築したIT・物流インフラ等を共有・活用した「プラットフォーム事業」を運営しております。また、それぞれの事業に関連した、プラットフォーム事業を活用して店舗も含めたブランド運営を行う「ブランド事業」を展開しております。

当社グループは、靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

各サービス区分の主な内容は以下のとおりであります。

#### (1) ECモール事業について

ECモール事業は、一般消費者であるユーザーが、当社グループが運営するショッピングモールサイト「LOCONDO.jp」、「MAGASEEK」、「dfashion」、「FASHIONWALKER」、「SPORTS WEB SHOPPERS」及び「waja bazar」、「Brandeli」、楽天株式会社が運営するショッピングモールサイト「楽天市場」及びヤフー株式会社が運営するショッピングモールサイト「Yahoo!ショッピング」等の他社モールにて展開する「LOCOMALL」を通じて各ブランドの商品を購入できるサービスであります。

なお、ユーザーに対して、一部の例外はありますが、「即日出荷」、「送料実質無料」、「サイズ交換無料」、「返品送料無料」のサービスを提供しております。

ECモール事業は、その仕入形態に応じて、受託型と買取型に分類されます。

#### (a) 受託型

受託型は、各ブランドがテナント方式で出店を行い、出店後の運営管理を当社が行うサービスであり、各ブランドの店舗に掲載する商品を当社グループの物流拠点に受託在庫として預かり、販売を行っております。なお、一部のブランドにつきましては、当社グループの物流拠点に在庫を置かず、各ブランドの物流拠点に在庫を置いたまま、各ブランドと当社グループ間で在庫データを共有し、商材が販売される度に、当社グループの物流拠点に商材を取り寄せる「受発注形式」をとっております。

買取型との主な違いは、各店舗の基本的なマーチャンダイジング（ ）をテナント側が実施すること、また、受託販売形式であるため当社グループが在庫リスクを負担しないことであり、ユーザーから返品があった場合も当該商品は各ブランドに返品されます。

当サービスに係る売上高につきましては、販売された商品の手数料を受託販売手数料として計上しております。

マーチャンダイジング：商品の販売時期や価格などを検討・決定する事。

#### (b) 買取型

買取型は、当社グループが各ブランドからファッション商材等の商品を仕入れ、自社在庫を持つことで当社グループが在庫リスクを負担し販売を行うセレクトショップ型事業であります。

当サービスに係る売上高につきましては、商品の販売価格により計上しております。

なお、販売形態による分類はありますが、取扱高管理や販売促進施策等は販売形態による区別をしていないため、ECモール事業としてまとめております。

また上記に加え、ECモール事業においては当社グループの集客力、ブランド力、出版社等の外部メディアとのネットワークを活用し、当社グループECモールに出店している各ブランドのブランディングを支援しております。

一例としまして、当社グループとパートナーシップを締結している各ブランドバナー広告を、当社グループのメインターゲット層である都心部の30代後半から40代の女性に合わせた出版社発行のファッション雑誌の発売と同時に当社グループECモールに掲載し、そのリンク先に特集を組んだブランドページを特設することによって、ECモール事業とのシナジー効果を生み出していると考えております。当サービスに係る売上高につきましては、各ブランドの広告掲載料を計上しております。

さらに、ギフトラッピング等のサービス手数料収入、ユーザーへ配送する商品に同梱するチラシの広告掲載手数料収入につきましても、ECモール事業に係る売上高として計上しております。

(2) プラットフォーム事業について

プラットフォーム事業は現在、大きく4つのサービスにて運営されております。

1つ目のサービス、ブランドの自社公式EC支援「BOEM (Brand's Official E-commerce Management)」/ECS (EC solution)」は、「LOCONDO.jp」等の運営のために構築しているECシステムや物流インフラ等のプラットフォームを共有・活用し、各ブランドが独自に運営するECサイトのシステム開発やデザイン制作等のウェブサイト構築だけでなく、物流請負、顧客対応請負、マーケティング請負等、必要に応じて各種物流関連業務を支援するものであります。

当サービスに係る売上高につきましては、ECモール事業の受託型と同様に販売された商品の手数料を受託販売手数料として計上しております。さらに、システム追加構築やマーケティング請負などに係るサービス手数料収入も売上高に計上しております。

なお、商品情報や在庫情報については、「LOCONDO.jp」、「MAGASEEK」、「dfashion」、「FASHIONWALKER」、「LOCOMALL 楽天店」、「LOCOMALL Yahoo!ショッピング店」と同期しているため、「LOCONDO.jp」で販売開始した商品は「LOCOMALL」や「BOEM/ECS」でも販売が開始される、いわゆる「(店舗間での)在庫シェアリング」が可能な体制となっております。

また、「LOCONDO.jp」等の販売強化のために行った、ECシステムや物流インフラ等のプラットフォームの新規機能の追加等は、プラットフォームをシェアリングしている「BOEM/ECS」にも自動的に反映される体制にもなっております。

2つ目のサービスとしては、物流倉庫業務を一括受託する、「e-3PL (3rd Party Logistics)」サービスを営んでおります。

当社グループのプラットフォームを共有・活用し、各ブランドの在庫を「各ブランドの自社公式EC + リアル店舗の在庫」として当社グループが保管し、各ブランドの自社公式ECサイトの出荷だけでなく、各ブランドのリアル店舗や他社が運営するECサイトへの出荷業務を担います。本サービスを導入することにより、各ブランドは物流倉庫を持たずに事業運営が可能となり、大幅なコスト削減ができるだけでなく、各ブランドが保有する全ての在庫をオンラインで販売することができるため、ブランド全体の在庫回転率を向上させることが期待できます。

さらに、当社グループはリアル店舗や他社が運営するECサイトの倉庫への出荷に対しても、ECモール事業と同水準のサービス「即日出荷(一部例外あり)」で対応するため、店舗への商品補充のスピードが向上することが期待されます。

当サービスに係る売上高につきましては、出荷業務に対する手数料に加えて商品保管料やシステム利用料等の月額固定収入を受託手数料として計上しております。

3つ目のサービスとしまして、当社グループのプラットフォームを利用した「LOCOCHOC」サービスを提供しております。

「LOCOCHOC」は、「LOCONDO.jp」等に出店しているブランドや小売店を対象に、各ブランド等のリアル店舗において欠品が生じた場合、ないしは、店舗に並んでいない商品をユーザーが要望する場合、店舗で注文を受け付けて、店舗でお支払いを済ませ、当社の物流倉庫からユーザーの自宅又はリアル店舗に「LOCONDO.jp」と同水準のサービス「即日出荷(一部例外あり)」で直送することが可能なサービスです。

4つ目のサービスとしまして、店舗の売上、在庫をECサイトと一元的に管理する「LOCOPOS」サービスを提供しております。

「LOCOPOS」はタブレットやスマホを使って店舗のPOSレジとして利用できるだけでなく、売上情報、在庫情報、顧客情報等をECサイトと一元的に管理できるのが特徴で、ファッション業界において重要とされているオムニ戦略を容易に実現できるツールとして提供しております。

当サービスに係る売上高につきましては、提供したサービスに対する手数料に加えてシステム利用料等の月額固定収入を受託手数料として計上しております。

(3) ECモール事業とプラットフォーム事業の相互補完性について

ECモール事業とプラットフォーム事業はそれぞれ独立しておらず、相互補完的な関係となっております。

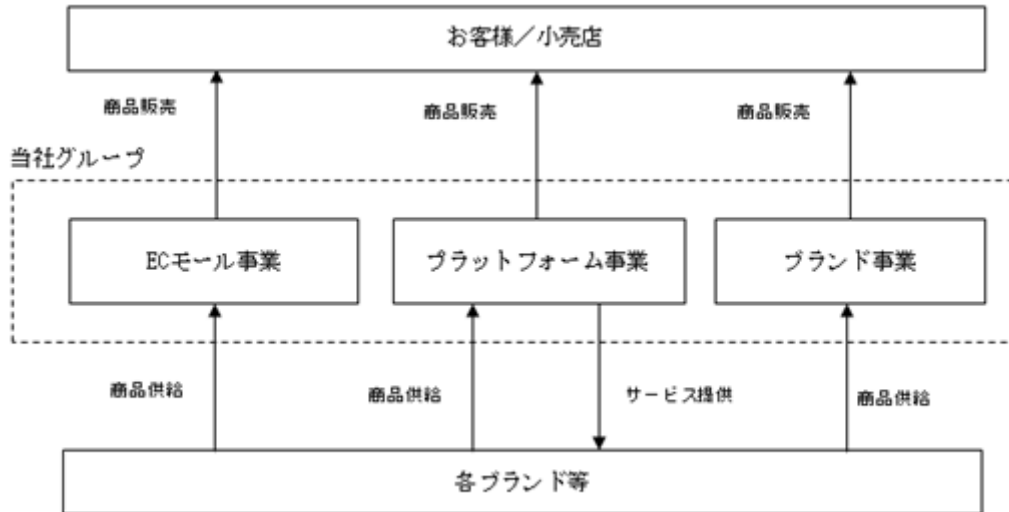
「LOCONDO.jp」においてユーザー満足度の向上、及び売上・利益の向上のため、ECシステムや物流インフラ等のプラットフォームの改善は常々、行っております。そしてこれらの改善内容は、「LOCONDO.jp」とプラットフォームシェアリングを行っているプラットフォーム事業、特に「BOEM/ECS」に対しては自動的に新機能がアップデートされる体制を構築しており、ECモール事業の強化がプラットフォーム事業の強化につながっております。

また、在庫管理シェアリングの観点からは、当社倉庫に商品を完全集約する「e-3PL」はもちろん、「BOEM/ECS」導入によるECモール事業との在庫共通化、「LOCOCHOC」導入によるECモール事業と店舗補充在庫との共通化により、ECモール事業でもこれらの商品が販売可能となり、プラットフォーム事業の強化がECモール事業の強化につながっております。

(4) ブランド事業について

ブランド事業は、ECモール事業及びプラットフォーム事業のインフラを活用し、自社でブランド運営を行う事業であります。現在の主な取扱ブランドは「Reebok」、「FASCINATE」、「MANGO」、「ブルーシンシア」、「ロイヤル」などであり、ECモール事業において差別化商品を展開するだけでなく、ブランド事業において当社の提供するプラットフォームサービスのベストプラクティスを構築していくことで、プラットフォーム事業の強化を図っております。

[ 事業系統図 ]



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所 有割合又は 被所有割合 (%)	関係内容
連結子会社 RBKJ株式会社 (注)	東京都渋谷区	50	小売業	66.0	当社プラットフォームの利 用・資金援助・役員兼任
マガシーク株式会社 (注)	東京都渋谷区	50	インターネットで の婦人・紳士服の 販売	81.0	当社プラットフォームの利 用・資金援助・役員兼任
ANBUR LEAGUE 株式会社	東京都渋谷区	1	中間持株会社	100.0	業務委託・資金援助・役員 兼任
株式会社FASCINATE (注)	大阪市中央区	7	紳士服・婦人服・ 雑貨の販売	100.0	当社プラットフォームの利 用・資金援助
株式会社ブルーシン シア(注)	岡山県岡山市	10	インターネットで の革製品の販売	70.0	当社プラットフォームの利 用・資金援助
ARIGATO株式会社	東京都渋谷区	1	書籍、雑誌等の出 版および販売	100.0	資金援助・役員兼任
株式会社ロイヤル (注)	愛知県名古屋市	50	シューズ、衣料 品、スポーツ用 品、日用雑貨等の 輸入販売業	100.0	当社プラットフォームの利 用・資金援助・役員兼任
株式会社ロイヤルロ ジスティクス(注)	愛知県名古屋市	50	物流請負業 (3PL)、倉庫賃 貸業	100.0	資金援助・役員兼任
広州東品文化発展有 限公司	中国広東省広 州市	10(万元)	コンサルティング 業	100.0	
持分法適用関連会社 TCB株式会社	岡山県倉敷市	3	繊維製品の製造・ 販売	35.0	経営助言

(注) 特定子会社に該当しております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2026年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業	336	(716)
合計	336	(716)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員は、( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 当社グループは靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業の単一であるため、セグメント別の記載はしておりません。
3. 従業員数が前連結会計年度末に比して95名増加いたしましたのは、主として株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスを連結の範囲に含めたことが主な要因であります。
4. 臨時従業員数が前連結会計年度末に比して318名増加いたしましたのは、主として株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスを連結の範囲に含めたことが主な要因であります。

(2) 提出会社の状況

2026年2月28日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
164 (406)	36.94	4.92	5,285

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員は、( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。
3. 従業員数が前事業年度末に比べて、24名増加しましたのは、マガシーク株式会社より転籍したためであります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円滑に推移しております。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び男女の賃金の差異

提出会社

当事業年度					補足説明
管理職に占める女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の育児休業取得率(%) (注)2.	労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1.			
		全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者	
50.0	100.0	55.1	75.1	85.5	(注)3

- (注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。
2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
3. 全労働者における男女の賃金の差異は、非正規雇用労働者の全労働者に占める比率が影響しております

連結子会社

連結子会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社グループが判断したものであります。

（会社の経営方針）

当社グループは、「HAPPY FOR ALL」という経営理念の下、お客様及び取引先企業へ革新的かつ満足度の高いサービスを提供するとともに、企業価値を向上させていくことを経営の基本方針としております。

（目標とする経営指標）

目標とする経営指標として、商品取扱高(返品後)を重視しております。

なお、当連結会計年度における商品取扱高(返品後)は43,871,190千円となりました。

（中長期的な会社の経営戦略）

当社グループの経営理念である「HAPPY FOR ALL」を実現するため、現状においては、ECモール事業と、ECモール事業で構築したIT・物流インフラ等を活用したプラットフォーム事業の2つ、及びそれぞれの事業に関連したブランド事業を運営しております。ECモール事業においては靴とファッションを中心に取り扱っておりますが、日本国内の衣料・服装雑貨等のEC化率は23.4%(令和6年度、経済産業省「電子商取引に関する市場調査」より)と、諸外国と比較しても低い水準にあると認識しており、当社グループの認知度向上を通じた当該EC化率の拡大を目指してまいります。

また、M&A等による新規・既存事業投資を積極的に行い、企業価値の向上を目指してまいります。

（対処すべき課題）

当社グループを取り巻く事業環境は、ファッションEC市場規模は拡大する一方で、大手事業会社による当分野への市場参入及び事業強化により、競争の厳しい状況が続くものと予想されます。このような状況下におきまして、当社グループの掲げる経営理念である「HAPPY FOR ALL」を実現させるべく、以下の課題に取り組んで参ります。

#### (1) 全国的な知名度の向上

オンライン広告の他、テレビを含む各種媒体を通じ、当社グループの知名度の浸透を図って参りましたが、今後の事業拡大及び競合企業との差別化を図るにあたり、当社グループのサービスの要諦である「自宅で試着、気軽に返品」サービスコンセプトをより一層、認知させていくことが重要であると認識しております。今後におきましても、引き続き費用対効果を慎重に検討した上で、当社グループのサービス内容まで含めて伝わるような広告宣伝やプロモーション活動を強化して参ります。

#### (2) システム及び物流機能の強化

当社グループの主要事業はインターネット上にてサービス提供を行っていることから、安定した事業運営を行うにあたっては、アクセス数の増加等を考慮したサーバー管理や負荷分散が重要となります。また、商品取扱高の増加に合わせて、倉庫面積の拡大や倉庫スタッフの採用、及びシステム化や機械化などの投資を通じた物流機能の強化が重要であると認識しております。今後におきましては、引き続きシステムの安定性確保及び効率化、物流機能の強化に取り組んで参ります。

#### (3) オムニ戦略基盤の強化

当社グループは、オムニ戦略の要諦とは、リアル店舗及びEC間での「在庫の一元化」及び「売上・会員情報の一元化」であると認識しております。EC在庫を複数のEC、及びリアル店舗で同時販売する「在庫の一元化(在庫シェアリング)」及び「リアル店舗在庫を複数のECで同時販売する「在庫の一元化」や、リアル店舗とEC間での「売上・会員情報の一元化」を実現するサービス」は当社グループが提供しているプラットフォームサービスによって実績も増えて来ております。今後さらなる完全な在庫の一元化及び売上・会員情報の一元化を「ワンストップ型」で実現するためには、現在のサービスラインアップに加えて基幹システムや卸事業等の領域もカバーする必要があると考えており、引き続き、オムニ戦略基盤の強化に向けた新規開発や機能改修に取り組んで参ります。また、利用企業数を大きく増やすにあたって、提携企業に対して当社が提供するプラットフォームサービスを積極的に導入し「オムニ戦略基盤のベストプラクティス(成功事例)」を早期に構築するための様々な問題解決も引き続き取り組んで参ります。

#### (4) 商品展開の強化

インターネットによるファッションEC市場は、今後もさらに拡大していくことが見込まれると同時に、その競争環境はより一層激しさを増すものと予想されます。そのなかで、当社グループが更なる事業拡大を実現するためにはこれまでの主要商品である靴や鞆以外に衣料品まで含めたユーザーのトータル・コーディネートに対するニーズを満たしていくことが重要であると認識しております。当社グループにおける衣料品のカテゴリ割合はまだ低いものの、「自宅で試着、気軽に返品」サービスコンセプトやオムニ戦略基軸、及びこれまでに構築してきた各ブランドとの関係を活用する等によって、幅広い品揃えを実現できるよう、努めて参ります。

#### (5) 優秀な人材の確保と組織力、オペレーションの強化

今後の事業拡大及び収益基盤の確立にあたり、優秀な人材の確保及びその定着を図ることは引き続き重要であると考えております。そのため、当社グループは継続的に採用活動を行うとともに、適正な人事評価を行い、優秀な人材の確保に努めて参ります。また、社員の職位、職務に応じた適切な研修を行い、人材の教育・育成を進めていく方針であります。

さらに今後の事業拡大にあたり、各種のオペレーションにおいては業務の標準化が継続的な成長を左右するものと考えております。このためコンプライアンスの徹底はもちろんのこと、様々な統制活動を通じ、オペレーションの品質向上及び業務効率の改善を進めて参ります。

## 2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次の通りであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。また、これらの将来予測は、不確実な変動要素が含まれており、実際の成果や業績などは、記載の見通しとは異なる可能性があります。

#### (1) ガバナンス

当社グループの取締役会は、経営のサステナビリティに関する監督・指揮を担当しております。取締役会においては、事業に関連する議案とあわせ、人材戦略を総合的に協議し遂行、特に重要な議案について、社外取締役を含めて議論しております。中長期的な企業価値向上のため、事業の成長とそれを推進する人材の採用、育成、活性化、適材適所を重視した経営を推進しております。

#### (2) 戦略

当社グループにおける、気候変動及び人的資本に関する取組みは以下のとおりであります。

##### 気候変動への対応

当社グループは持続可能な社会の実現に貢献する企業として、気候変動を重要な経営課題のひとつとして認識し、社会貢献、環境負荷の低減と事業活動の効率性の向上に以下の通り取り組んでおります。

##### 1. 電気をだいに

- ・倉庫の電灯はすべて消費電力が少ないLEDライトを使用
- ・冷暖房の電力使用を抑えるためピックアスファンを全フロア に設置
- ・冷房は28℃、暖房は20℃の設定を推奨

##### 2. 資源もだいに

- ・倉庫のパレットは再生プラスチックを使用
- ・捨てるはずの革の切れ端を集めたエコレザー商品を販売
- ・サステナブル素材を使った #サステナブル特集の常設開始

##### 3. 紙をなくそう

- ・領収書はマイページからダウンロード可能
- ・稟議や勤怠届もすべてクラウドで
- ・WMS（倉庫管理システム）も内製開発し、スマホでピッキング

##### 4. 温暖化ガスも減らそう

- ・採寸情報やレビュー評価、返品レポート機能等で2015年から返品率は半減
- ・トラックの位置情報を共有し、再配達を抑制（ファーストクラス便）
- ・本社に限らずロコポートでも自転車通勤を奨励し自転車を無料貸与

5. 地域に貢献しよう
  - ・八千代市民が皆、使えるコミュニティスペースを設置、開放
  - ・バス会社、八千代市とも協議をし、住宅街、高校、駅（とロコポート）を結ぶバス路線を新設（バス運転手の休憩所も無料開放）
6. サステナブルは職場から
  - ・生産性を徹底的に向上し、残業時間を削減
  - ・倉庫内のデジタル運営や入荷の自動化などを通じ、単純作業を極力減らし、複雑な作業を人間で

#### 人材育成及び社内環境整備に関する方針

当社グループでは、人材力が重要な競争力であると位置付けています。当社グループでは、事業活動に関わる全ての人々の人権を大切に、雇用や処遇にあたり人種、宗教、性別、年齢、性的指向、性同一性と性表現、障がい、国籍などによる差別やハラスメント等を受けずに自分らしく活躍できる環境づくりに努めております。

また、年2回の評価制度により、多様な職種で高い成果を出した従業員を評価しており、組織全体の活性化と高いモチベーションの維持に寄与しております。

#### (3) リスク管理

当社はサステナビリティに関連するリスクを経営上の重要な課題と認識しており、事業活動に重大な影響を及ぼすリスクについては、速やかに取締役会に報告するとともに、取締役会で審議しております。

#### (4) 指標及び目標

当社グループにおける、上記「人材育成及び社内環境整備に関する方針」に関し、D&I (Diversity & Inclusion) への対応についての目標及び実績は、次のとおりであります。

2026年2月28日現在

	2026年2月28日目標	2026年2月28日実績	2031年2月28日目標
女性の年間賃金	+10%増（2023年2月比）	474.2万円（+13%増）	+10%増（2026年2月比）
女性の平均勤続年数	5年	4.5年	7年

正規雇用（社外への出向者を除き、他社から当社への出向者を含みます）の平均値となります。

年間賃金には、基本給、超過労働に対する報酬、賞与等を含み、退職手当、通勤手当等は含まれておりません。

株式会社ロイヤルについては、民事再生に伴い2025年12月に新設分割でM&Aした会社であり、かつ2026年4月より当社グループとの人事制度統合を開始した直後であるため、過年度実績との継続性および将来予測の合理性を欠くことから、当連結会計年度の数値および目標値の記載を差し控えております

#### 【実績に関する分析と今後の取り組み】

女性の年間賃金については、当初目標を大幅に上回る実績となりました。これはグループ業績の力強い成長に伴い、高い成果を創出した人材に対して適切に報いる「業績連動型の還元」を徹底した結果であります。当社グループは、持続的な成長には従業員の貢献への還元が不可欠であると考えており、今後も高い生産性を背景とした競争力のある給与水準を維持してまいります。

一方で、平均勤続年数は4.5年となり目標（5年）を下回りました。これには、事業拡大に伴う採用強化に加え、2025年3月のマガシーク株式会社からの転籍により、勤続年数1年未満の従業員が大幅に増加したことが主要因となります。実態としての定着率が悪化したものではなく、むしろグループ統合による「将来の成長に向けた人的資本の拡充」を優先した結果であると認識しております。

今後は2031年2月期の目標達成に向け、既に導入済みのESOP（従業員持株交付信託）と同様、従業員の意欲と業績向上を連動させる人事制度の拡充、AI活用による徹底した業務効率化、および多様な人材が長期にわたり活躍できる環境整備を推進し、さらなる生産性と企業価値の向上に努めてまいります。

### 3【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した当社の事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、リスク要因となる可能性がある事項及びその他の投資者の判断に影響を及ぼすと考えられる事項には、以下のようなものがあります。

また、リスク要因に該当しない事項についても、投資者の判断上重要であると考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、別段の記載がない限り、当事業年度末現在において当社が判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

#### (1) インターネット関連市場について

当社グループはインターネットを介して商品を販売するECモール事業を主力としており、ブロードバンド環境の普及によりインターネット関連市場が今後も拡大していくことが事業展開の基本条件であると考えております。

しかしながら、新たな法的規制の導入、技術革新の遅れ、利用料金の改訂を含む通信事業者の動向など、予期せぬ要因によりインターネット関連市場の発展が阻害される場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) 競合優位性について

当社グループはインターネット通信販売事業者として、単なる商品の流通を行うだけでなく、サイトの利便性を高め、また各ブランドと良好な関係を保ちつつ、次のような特徴あるサービスを提供することによって、競合優位性を有していると考えておりますが、インターネット関連市場の拡大に伴い、インターネット通信販売事業者の増加、各ブランド自身によるインターネット販売への展開、競合他社による新たな付加価値サービスの提供等がなされた場合、当社グループの競争力が低下する可能性があります。また、これらの競合他社との間に価格競争が生じた場合や、配送費用や人件費が高騰した場合には、当社グループの収益力が低下する可能性があります。

「LOCOND.O.jp」について

##### a) 即日出荷便の送料実質無料・サイズ交換無料・返品送料無料

通販サイトでは「試着できない」というユーザーの心理的バリアを払拭するため、ユーザーに対して、一部の例外はありますが、送料実質無料・サイズ交換無料・返品送料無料サービス（一部、条件あり）を提供しております。

##### b) 靴を中心とした品揃え

創業当初よりファッションアイテムの中でも、特に、試着しないと購入しにくいと考えられる「靴」を中心に商品を販売しており、「自宅で試着、気軽に返品」サービスの提供が可能な体制を構築しております。

##### c) コンシェルジュサービス

ユーザーからの問い合わせは、充実した社内研修やシューフィッターによる教育を受けた正社員のコンシェルジュが迅速に対応しています。

プラットフォームサービスについて

##### a) 各ブランドの様々なニーズ対応

担当バイヤー（アカウントマネージャー）が各ブランドの様々なニーズを丁寧にヒアリングし、当社グループの物流スタッフやITエンジニア、WEBデザイナーの力を組み合わせることで、ブランド自社公式ECのデザインカスタマイズや機能改修はもちろん、物流委託業務にあたっては様々なニーズに対応することができます。

##### b) 追加コストの削減

「LOCOND.O.jp」の在庫や商品画像、商品データと共通化することで、原則、すべてのプラットフォームサービスの導入において、倉庫保管費用や入荷作業、商品撮影・システム開発等の追加コストをかけることなく運営が可能となり、各ブランドのシステム開発コスト、業務運営費用を削減する効果が期待できます。

##### c) 高スピード

すべてのプラットフォームサービスを拡張性のある仕様としており、各種サービスの申込から利用開始までの納期を短縮することができます。また、配送に関してはロコポートが一括受託することで、自社公式ECや店舗出荷に関しても、最短、即日出荷（土日を含む）が可能です。

(3) 返品について

当社グループは「HAPPY FOR ALL」という経営理念の下、「自宅で試着、気軽に返品」の靴とファッションの通販サイト「LOCONDO.jp」の運営を主たる事業としており、原則として全ての返品を受け付けております。返品自由のサービスレベルを下げる事なく、返品フローの見直しや、返品率の低い「LOCOMALL」での販売をミックスすることで、売上高に占める返品コストを一定水準以下に保つように種々の施策をしておりますが、返品が当社グループの予想を超えて大きく発生した場合には、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) システムトラブルについて

当社グループはインターネット通販サイトの運営を主たる業務としており、事業の安定的な運用のためのシステム強化及びセキュリティ対策を行っております。しかしながら、地震、火災等の自然災害、事故、停電など予期せぬ事象の発生によって、当社グループ設備又は通信ネットワークに障害が発生した場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 物流機能について

当社グループは、商品取扱高の増加に応じて、倉庫・スタッフ等の拡充を行っておりますが、これらを適時に行えなかった場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。また、物流拠点を設置している地域において、地震、台風等の自然災害が発生したことにより物流拠点が被害を受けた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 流行及び季節要因について

当社グループは、5,000ブランド以上の幅広い靴・アパレル等の商材を取り扱っておりますが、これらの商材は、冷夏暖冬といった天候不順に加え台風等の予測できない気象状況の変化によって販売の動向に影響を受ける可能性があります。当社グループは、気象状況の変化などを検討し販売施策などを行っておりますが、予測できない気象状況の変化などによっては当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 在庫リスクについて

当社グループは、一部の商材については、自らの仕入を行い自社在庫として保有したうえで販売を行う買取型の仕入形態をとっております。これらの仕入れを行う際は、市場の流行・顧客の嗜好を考慮しておりますが、買取型の比率が増加し、市場の流行・顧客の嗜好の変化により、商品の販売状況が当社グループの想定していたものと大きく異なる結果、棚卸資産の評価減を実施することとなった場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 特定人物への依存について

当社グループの創業メンバーである代表取締役社長田中裕輔は、当社事業に関する豊富な経験と知識を有しており、経営方針や事業戦略の決定など、当社グループの事業活動全般において極めて重要な役割を果たしております。当社グループでは同氏に過度に依存しないよう、経営幹部役職者の拡充、育成及び権限委譲による分業体制の構築などにより、経営組織の強化に取り組んでおりますが、何らかの理由により同氏による業務執行が困難となった場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 人材の確保について

当社グループは今後の事業拡大及び収益基盤の確立のためには、優秀な人材の確保及び育成することが不可欠と認識しており積極的な採用活動を行っておりますが、今後において当社が求める人材を十分に確保できなかった場合には、当社グループの事業に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 特定の業務委託に対する依存度の高さについて

当社グループは商品購入者からの販売代金の回収業務について、特定の第三者に委託しております。当事業年度末現在において当該回収委託業者との間に問題は生じておりませんが、今後において取引条件等の変更等があった場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 法的規制について

当社グループ事業は、「特定商取引に関する法律」、「不当景品類及び不当表示防止法」、「製造物責任法」、「不正競争防止法」、「個人情報の保護に関する法律」等による規制を受けております。当社グループは、社内の管理体制の構築等によりこれら法令を遵守する体制を整備しておりますが、これらの法令に違反する行為が行われた場合、法令の改正又は新たな法令の制定が行われた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 知的財産権について

当社グループは、運営するサイト名称について商標登録を行っており、今後もインターネット上で新たなサービスを展開する際にも、関連する商標登録を行っていく方針です。また当社グループが運営するインターネットサイト上で販売する商品及び掲載する画像については第三者の知的財産権を侵害しないように監視・管理を行っておりますが、今後も知的財産権の侵害を理由とする訴訟やクレームが提起されないという保証はなく、そのような事態が発生した場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 個人情報について

当社グループ会員等の個人情報については、クレジットカード情報を保持しない等のシステム設計上の配慮は当然ながら、個人情報に関する社内でのアクセス権限の設定や、外部データセンターでの厳重な情報管理等、管理面及び物理的側面からもその取扱いに注意を払っております。また、社内での個人情報保護に関する教育啓蒙を行っており、個人情報保護についての重要性の認識の醸成を行っております。

しかしながら、外部からの不正アクセスや想定していない事態によって個人情報の外部流出が発生した場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 訴訟について

当社グループは当事業年度末現在において、重大な訴訟を提起されている事実はありません。しかしながら、当社グループが事業活動を行うなかで、顧客等から当社グループが提供するサービスの不備、個人情報の漏えい等により、訴訟を受けた場合には、当社グループの社会的信用が毀損され事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(15) 配当政策について

当社グループは、株主に対する利益還元と同時に、財務基盤を強固にするとともに競争力を確保し、積極的に事業拡大を図っていくことが重要な経営課題であると認識しております。

今後の配当政策としましては、健全な財務体質の維持及び収益力の強化や事業基盤の整備に備えるための内部留保を勘案したうえで、株主への利益還元の実施を基本方針としております。

(16) 事業提携やM & Aについて

当社グループは、競争が激化するファッションEC市場において、既存サービス等との相乗効果が期待できる場合や、新サービスを導入することにより将来的な事業展開につながる可能性があるかと判断した場合には、事業提携やM & A等について積極的に検討をしていく方針です。しかしながら、事前の調査・検討に不足・見落としがあったり、買収後の市場環境や競争環境の著しい変化があったり、買収した事業が計画通りに展開することができず、投下した資金の回収ができない場合や追加的費用が発生した場合等において、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(17) のれんの減損損失について

当社グループは、事業の成長加速のためM & Aを必要に応じて実施しており、その結果としてのれんが発生しております。のれんについては適時、減損テストを行いますが、のれんが十分な将来キャッシュ・フローを生み出さないと判断された場合には、のれんの減損損失を認識する必要性が生じ、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(18) 為替相場の変動について

当社グループは、仕入の一部を外貨建てで行っております。短期的な為替変動が当社の業績に与える影響は軽微なものであると考えられますが、想定以上の為替変動が生じた場合等には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

これらのリスクに対して、当社グループでは、為替予約を行うことでリスクの低減に努めております。

#### 4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

##### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度末における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概況は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

##### (財政状態の状況)

##### a. 流動資産

当連結会計年度末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて2,460,110千円増加し、10,539,472千円となりました。これは主に、関係会社株式の取得及び長期借入金の返済により現金及び預金が58,599千円減少した一方で、売掛金が675,403千円増加したことによるものであります。

##### b. 固定資産

当連結会計年度末における固定資産は、前連結会計年度末に比べて1,004,288千円増加し、5,046,704千円となりました。これは主に、M&Aにより土地が584,720千円増加、建物及び構築物が256,472千円増加したことによるものであります。

##### c. 負債合計

当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて1,296,517千円増加し、7,025,409千円となりました。これは主に、受託販売預り金が496,363千円減少した一方で、支払手形及び買掛金が799,940千円増加したことによるものであります。

##### d. 純資産

当連結会計年度末における純資産は、前連結会計年度末に比べて2,167,882千円増加し、8,560,767千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が1,570,933千円増加、自己株式が692,083千円減少（純資産の増加）したことによるものであります。

##### (経営成績の状況)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2024年 3月 1日 至 2025年 2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年 3月 1日 至 2026年 2月28日)	対前年 増減率
商品取扱高	48,157,658 (100.0%)	43,871,190 (100.0%)	8.9%
売上高(注)3	19,231,316 (39.9%)	19,441,498 (44.3%)	1.1%
売上総利益	15,174,547 (31.5%)	15,154,133 (34.5%)	0.1%
EBITDA(注)1、2	2,288,746 (4.8%)	3,063,906 (7.0%)	33.9%
営業利益	1,535,039 (3.2%)	2,403,672 (5.5%)	56.6%
経常利益	1,551,117 (3.2%)	2,561,694 (5.8%)	65.2%
親会社株主に帰属する当期 純利益	565,050 (1.2%)	1,570,933 (3.6%)	178.0%

(注)1. EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれんの償却額

2. 当社グループでは、2020年2月期よりののれんの償却が発生しておりますが、今後とも事業の成長加速のためM & Aを積極的に検討していく方針であり、のれんの償却が増加する可能性があります。この点を考慮し、EBITDAを参考指標として開示しております。
3. ECモール事業の受託型については販売された商品の手数料を、プラットフォーム事業についてはサービスの手数料を売上高として計上しております。
4. ( )内は商品取扱高に対する割合を記載しております。

当連結会計年度におけるマクロ経済環境は、長引く物価上昇による消費者心理へのマイナス影響、米国関税政策、中東における地政学的リスクの高まり等、経済の見通し、個人消費の動向に関しましては、依然不透明な状況が続いております。そのような中、当社グループの主たる事業領域であるファッションEC市場に関しては、2024年度は前年比+4.7%、ファッション市場全体に占めるEC割合、いわゆるEC化率も23.4%まで増加し（経済産業省調べ）引き続き成長して行く市

場であると見込まれています。またECだけでなく店舗や物流などあらゆる領域をデジタル化して効率化していくDX（デジタルトランスフォーメーション）需要も年々増加し、流通小売市場における国内DX投資額は2020年から30年までの10年間で5.6倍と大幅に増えて行く事が見込まれています（富士キメラ総研調べ）。

このような環境下、当社グループはECモール事業、プラットフォーム（DX）事業、ブランド事業という相互補完的かつ各々が競争優位性を有する3つの事業を展開しております。

ECモール事業における主軸のサービス「靴を買うならロコンド」でおなじみのLOCONDO.jpではウェブ広告等を通じた認知度向上とブランド数や品揃えの充実という需要供給両面での向上に引き続き努めて参りました。加えて当社グループは様々な消費者ニーズを捉えるためM&Aを通じた、多モール展開戦略を実行しておりますが、前連結会計年度より新たにMAGASEEK、d fashionが加わったことで、現在は、若年層アパレルのFASHION WALKER、サッカー専門店のSWS、海外バイヤーの販売プラットフォームであるwaja、アウトレットモールのBRANDELIも含め、合計7つのECモールを展開しております。これらのウェブサイトは全て異なるものの、その裏側であるITインフラや物流インフラは全て一元化されているため、複数のモールを効率的に運営できるのが当社グループの強みになります。なお、d fashionに関しましても、今年度上半期中にITインフラの一元化を完了いたしました。

プラットフォーム（DX）事業においては、自社公式EC運営（BOEM）、倉庫受託（e-3PL）、店舗POSレジ（LOCOPOS）、店舗欠品フォロー（LOCOCHOC）、基幹システム（LoCORE）など、ファッション業界において必要とされるITインフラと物流インフラを全て有しているため一括受託（ALL-IN-ONE）が可能である事、またe-3PLにおきましては他のEC企業ではどこも対応できていない百貨店や卸への出荷も全て対応できる事が当社グループの強みになります。さらにECモール事業における新機能がシームレスにBOEM、LOCOPOS、LOCOCHOCなどに展開される体制を敷いているため、利用企業様については低コストで最新鋭の技術を享受頂ける事も本プラットフォームサービスの強みになっております。こちらもマガシークの連結子会社化に伴い、同社のECS事業（自社公式EC運営、BOEMと同義）が加わったことで、取引ブランド層の厚みを拡張することができました。マガシークのECSをジェイドグループのシステムのBOEMへ移行・統合させて行く計画も順次、進行中で、本年度中にはほとんどが完了、一部お取引先様を残すのみとなりました。

ブランド事業においては、2020年以降、様々なインフルエンサーとコラボレーションブランド企画を展開し、売上増とジェイドグループの認知度向上の2つを実現しながらインフルエンサーマーケティングノウハウを蓄積して参りました。さらに、2022年度からは伊藤忠商事株式会社との新設子会社であるRBKJ株式会社（出資比率はジェイドグループ66%、伊藤忠商事34%）を通じてグローバルスポーツブランドのReebok国内販売権を獲得し、ReebokのEC、直営店舗、卸事業を展開して参りました。Reebok事業の展開に際しては、弊社のプラットフォーム事業の活用を軸とするPMI（Post Merger Integration: 買収後の統合）をスピーディに実行する事でスムーズな事業立ち上げを実現するとともに、ECモール事業で培ったマーケティングノウハウを活用する事でブランドの更なる知名度向上を実現してまいりました。

さらに新たなブランド事業として前連結会計年度にはFASCINATEと持分法子会社のTCBが、当連結会計年度にはブルーシニアとマルタミ（FASCINATEと統合）が加わりました。このようなブランドのM&Aを推進し、同時にブランドの独立性とグループ融合を両立させる事を目的とし、中間持ち株会社「ANBUR LEAGUE株式会社（アンバーリーグ）」を設立いたしました。現在、ANBUR LEAGUEに所属する会社はFASCINATE、TCB、ブルーシニアの3社になりますが、今後も拡大を目指して参ります。また、第4四半期にはロイヤルが新たなグループ企業として加わり、早速統合効果を実現しております。まさに、この統合効果のスピード実現が当社グループの強みであり、今後もこの強みを生かしたノンオーガニック成長の取り込みと、グループシナジーの実現によるオーガニック成長の同時実現を目指してまいります。

これらの結果、当連結会計年度においてはM&A効果もあり、商品取扱高は43,871,190千円（前年同期比8.9%減）、売上高は19,441,498千円（前年同期比1.1%増）となりました。売上総利益は15,154,133千円（前年同期比0.1%減）となりました。取扱高の減少は、主にマガシークのECS取引の解約による減少によるものです。販売管理費は、M&A及びロコポートの稼働開始に伴う増加があったものの、物流フローの効率化やウェブ広告の効率化、各種手数料の引き下げ、本社・倉庫の集約を中心とした組織運営の効率化によって12,750,461千円（前年同期比6.5%減）となりました。

これらの結果、EBITDAIは3,063,906千円（前年同期比33.9%増）、営業利益は2,403,672千円（前年同期比56.6%増）、経常利益は2,561,694千円（前年同期比65.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は昨年計上した特別損失が減少したことも加わり、1,570,933千円（前年同期比178.0%増）となりました。

各事業別の業績は以下のとおりであります。

事業別	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)			当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)			取扱高 対前年 増減率 (%)	売上高 対前年 増減率 (%)
	取扱高 (百万円)	構成比 (%)	売上 (百万円)	取扱高 (百万円)	構成比 (%)	売上 (百万円)		
ECモール事業	25,581	50.8	8,374	24,053	52.4	7,675	6.0	8.3
うち、自社モール	23,428	46.5	-	22,009	47.9	-	6.1	-
うち、他社モール	2,153	4.3	-	2,044	4.5	-	5.1	-
プラットフォーム事業	18,365	36.4	5,457	13,639	29.7	4,471	25.7	18.1
うち、BOEM / ECS	17,348	34.4	-	12,885	28.1	-	25.7	-
うち、e3PL	0	0.0	-	-	-	-	-	-
うち、ロコチョコ等	1,017	2.0	-	754	1.6	-	25.9	-
ブランド事業	6,453	12.8	6,374	7,793	17.0	7,769	20.8	21.9
うち、REEBOK	5,378	10.7	-	4,364	9.5	-	18.8	-
うち、ANBUR LEAGUE	876	1.7	-	1,781	3.9	-	103.2	-
うち、ROYAL	-	-	-	1,427	3.1	-	-	-
うち、MANGO他	198	0.4	-	220	0.5	-	11.2	-
その他事業	-	-	-	447	1.0	447	-	-
合計	50,401	100.0	20,206	45,934	100.0	20,363	8.9	0.8
相殺消去	2,243	-	974	2,063	-	922	-	-
相殺後	48,157	-	19,231	43,871	-	19,441	8.9	1.1

- (注) 1. 当社グループの事業セグメントは、靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業の単一セグメントであるため、セグメント別の販売実績の記載はしていません。
2. 「自社モール」とは、「LOCONDO.jp」「MAGASEEK」「d fashion」「FASHION WALKER」「SWS」「wajabazar」「BRANDELI」の取扱高等になります。
3. 「他社モール」とは、「楽天市場」及び「Yahoo!ショッピング」など他社モールにて展開する取扱高等になります。
4. ECモール事業の受託型に係る売上高については、販売された商品の手数料を受託販売手数料として計上しております。
5. 「ANBUR LEAGUE」とは、「FASCINATE」「マルタミ」「ブルーシンシア」の取扱高等になります。
6. 従来は「FASCINATE」と表示しておりましたが、当連結会計年度より「ANBUR LEAGUE」に変更しております。
7. 当連結会計年度より加わりました「サンキュ！」ビジネスはその他事業に含まれております。
8. 当連結会計年度より加わりましたロイヤルロジスティクスの売上はプラットフォーム事業に含まれております。

a. ECモール事業

ECモール事業につきましては、複数ブランドを通販サイト経由で販売する事業で、販売在庫の中には受託型と買取型の2種類があります。一部の海外輸入ブランドや当社が自社開発しているD2Cブランドは買取型に当たります。商品取扱高は商品の販売価格を基に記載しておりますが、売上高は買取型については商品の販売価格を計上し、受託型については販売された商品の手数料を受託販売手数料として計上しております。「LOCONDO.jp」、「MAGASEEK」、「d fashion」、「FASHIONWALKER」、「SWS」、「waja bazar」、「BRANDELI」の運営、「楽天市場」、「Yahoo!ショッピング」など他社モールへの出店を行っており、当連結会計年度においては出店ブランド数は5,049となり、商品取扱高は24,053百万円（前年同期比6.0%減）、売上高は7,675百万円（前年同期比8.3%減）となりました。

b. プラットフォーム事業

プラットフォーム事業につきましては、ブランドの自社公式EC支援（BOEM、ECS）、倉庫受託（e-3PL）、店舗の欠品及び品揃え補強（LOCOCHOC）の運営等を行っております。「BOEM」「ECS」における支援ブランド数は、当連結会計年度末時点で39ブランドとなりました。これにより、当連結会計年度の商品取扱高は13,639百万円（前年同期比25.7%減）、売上高は4,471百万円（前年同期比18.1%減）となりました。

なお、倉庫受託（3PL）及びマガシークにおける受託業務に関しては、それぞれ、ユーザーへの販売を伴わない商品補充等の出荷も含まれること、現時点においては弊社システムを活用したビジネスではないことから、その出荷額は商品取扱高には含めておりません。

c. ブランド事業

ブランド事業では、当連結会計年度よりマルタミ、ブルーシンシア、ロイヤルが加わり、同3ブランド及び、REEBOK、FASCINATE、MANGOを、EC、店舗、卸売を通じて運営しております。当該事業の当連結会計年度の商品取扱高は7,793百万円（前年同期比20.8%増）、売上高は7,769百万円（前年同期比21.9%増）となりました。

d. その他事業

当連結会計年度より「サンキュ！」ビジネスが加わりました。当該事業の当連結会計年度の商品取扱高（雑誌の販売）は447百万円、売上高（サンキュ！事業全体）は447百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は2,934,837千円となりました。  
各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

a. 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により得られた資金は1,763,190千円となりました。これは主に棚卸資産の減少84,581千円、税金等調整前当期純利益の計上2,551,694千円によるものであります。

b. 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により使用した資金は1,362,848千円となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出987,546千円によるものであります。

c. 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により使用した資金は489,767千円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出542,280千円によるものであります。

当社グループの事業活動における運転資金需要の主なものは、ECモール事業における買取型及び店舗・卸等事業における商品の仕入費用及び商品を販売するために投下する広告宣伝費、商品を保管する倉庫の賃借料等の販売費、一般管理費があります。また、設備投資資金需要として倉庫の設備増強及びEC基幹システムへの投資等があります。

加えて、当社グループは、競争が激化するファッションEC市場において、既存サービス等との相乗効果が期待できる場合や、新サービスを導入することにより将来的な事業展開につながる可能性があるかと判断した場合には、事業提携やM & A等について積極的に検討をしていく方針であり、これらの施策のための資金需要がありません。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当社グループは生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

b. 受注実績

当社グループは受注生産を行っておりませんので、該当事項はありません。

c. 販売実績

販売実績については、「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

(2) 経営者の視点による経営成績の状況に関する分析・検討の内容

重要な会計方針及び見積り

当社グループの財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成にあたって、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額並びに開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて過去の実績や現状等を勘案し合理的に判断していますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、当社グループは「第2 事業の状況 3 事業等のリスク」に記載のとおり、市場の動向等、様々なリスク要因が当社の経営成績に重要な影響を与える可能性があることを認識しております。

5 【重要な契約等】

(1) 企業・株主間のガバナンスに関する合意

該当事項はありません。

(2) 企業・株主間の株主保有株式の処分・買増し等に関する合意

該当事項はありません。

(3) ローン契約と社債に付される財務上の特約

該当事項はありません。

(4) その他の重要な契約

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は348,285千円であります。その主な内容は、新店舗の出店費用及びユーザーのためのユーザビリティの向上や業務の効率化を目的としたEC基幹システムへの投資等であります。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

また、当社グループは靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていません。

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

当社における主要な設備は、以下のとおりであります。

2026年2月28日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)	
			建物 (千円)	機械及 び装置 (千円)	工具、 器具及 び備品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	ソフトウ エア (千円)	その他 (千円)		合計 (千円)
本社他 (東京都渋谷区)	靴を中心としたファッション関連	本社事務所	71,167	-	229,492	-	197,987	9	498,656	121 (6)
口コポート (千葉県八千代市)	商品等の販売、企画、仕入事業	物流倉庫	139,761	27,681	59,108	-	-	-	226,551	43 (400)

- (注) 1. 「その他」は、商標権、車両運搬具であります。  
 2. 本社他の金額にはデータセンターにある当社保有のサーバーを含めて記載しております。  
 3. 現在休止中の主要な設備はありません。  
 4. 従業員数の( )は、臨時従業員の年間の平均人員を外数で記載しております。  
 5. 主要な賃借設備として、以下のものがあります。

2026年2月28日現在

事業所名 (所在地)	設備の名称	年間賃借料(千円)
本社 (東京都渋谷区)	事務所	57,796
口コポート (千葉県八千代市)	物流倉庫	956,949

(2) 国内子会社

2026年2月28日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)	
				建物 (千円)	機械及び 装置 (千円)	工具、器 具及び備 品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	ソフトウ エア (千円)	その他 (千円)		合計 (千円)
RBKJ 株式会社	本社 (東京都 渋谷区)	小売業	本社事務所	-	-	-	-	239	-	239	7 (-)
	店舗 (国内)		店舗設備	74,930	-	2,712	-	-	-	77,643	41 (15)
マガシーク 株式会社	本社 (東京都 渋谷区)	インター ネットでの 婦人・紳士 服の販売	本社事務所	7,595	-	2,142	-	219,734	436	229,908	3 (-)
	物流倉庫 (国内)		物流倉庫	5,869	-	81,509	-	-	-	87,378	- (-)
株式会社 FASCINATE	本社 (大阪市中 央区)	紳士服・婦 人服・雑貨 の販売	本社事務所	0	-	675	-	18,735	0	19,410	24 (3)
	店舗 (国内)		店舗設備	28,275	-	7,910	-	-	0	36,185	- (-)
株式会社 ブルーシ ンシア	本社 (岡山県 岡山市)	インター ネットでの 革製品の 販売	本社事務所	31,588	432	-	25,792 (247)	-	1,402	59,215	2 (1)
株式会社 ロイヤル	本社他 (愛知県名 古屋市他)	シューズ、 衣料品、ス ポーツ用 品、日用雑 貨等の輸入 販売業	本社事務所	1,855	-	3,621	-	-	118	5,594	43 (20)
	店舗 (国内)		店舗設備	46,582	-	-	-	-	-	46,582	36 (98)
株式会社 ロイヤルロ ジスティク ス	本社 (愛知県 名古屋市)	物流請負業 (3PL)、倉 庫賃貸業	本社事務所	-	-	-	-	-	-	-	1 (-)
	物流倉庫 (国内)		物流倉庫	119,695	-	4,938	558,927 (79,480)	-	1,300	684,863	14 (173)

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。  
2. 従業員数の( )は、臨時従業員の年間の平均人員を外数で記載しております。  
3. 主要な賃借設備として、以下のものがあります。なお、RBKJ株式会社の本社事務所は提出会社より賃借しているものであります。

2026年2月28日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の名称	年間賃借料(千円)
RBKJ株式会社	本社 (東京都渋谷区)	事務所	-
	店舗 (国内)	店舗	234,772
マガシーク株式会社	本社 (東京都渋谷区)	事務所	52,233
	物流倉庫 (国内)	物流倉庫	460,615
株式会社FASCINATE	本社 (大阪市中央区)	事務所	2,640
	店舗 (国内)	店舗	50,094

2026年2月28日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の名称	年間賃借料(千円)
株式会社ロイヤル	本社他 (愛知県名古屋市他)	事務所	72,470
	店舗 (国内)	店舗	56,329
株式会社ロイヤルロジスティクス	本社 (愛知県名古屋市)	事務所	-
	物流倉庫 (国内)	物流倉庫	11,451

(3) 在外子会社  
該当事項はありません。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設  
該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却  
該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,968,000
計	33,968,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2026年2月28日)	提出日現在発行数 (株) (2026年5月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,487,360	11,487,360	東京証券取引所 (グロース市場)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 なお、単元株式数は100株であります。
計	11,487,360	11,487,360	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2026年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

第7回新株予約権（2016年4月22日臨時株主総会決議）

	事業年度末現在 (2026年2月28日)
付与対象者の区分及び人数(名)	従業員 44(注)8
新株予約権の数(個)	280 [-]
新株予約権の目的となる株式の種類、新株予約権の目的となる株式の数(株)	普通株式 11,200 [-] (注)2、7
新株予約権の行使時の払込金額(円)	750(注)3、7
新株予約権の行使期間	自 2018年6月1日 至 2026年3月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 750 資本組入額 375 (注)7
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)5
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)6

当事業年度の末日(2026年2月28日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2026年4月30日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[ ]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

(注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、当事業年度末現在は40株であります。

2. 当社が株式分割(株式無償割当を含む。)又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的となる株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てる。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が吸収合併、新設合併、吸収分割、新設分割、株式交換もしくは株式移転を行なう場合又はその他やむを得ない事由が生じた場合には、新株予約権の目的となる株式の数は、合理的な範囲で取締役会決議により調整されるものとする。

3. 当社が株式分割(株式無償割当を含む。)又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が行使価額を下回る払込金額で募集株式の発行又は自己株式の処分を行う場合(新株予約権の行使に基づく株式の発行・処分を除く)は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記算式において「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式の処分を行う場合には「新規発行」を「自己株式の処分」、「1株当たり払込金額」を「1株当たり処分金額」と読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、当社が吸収合併、新設合併、吸収分割、新設分割、株式交換もしくは株式移転を行なう場合又はその他やむを得ない事由が生じた場合には、行使価額は、合理的な範囲で調整されるものとする。

4. 新株予約権の行使の条件

新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、権利行使時において、当社又は当社社会の取締役、監査役、従業員又は顧問、その他これに準ずる地位を有していなければならない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者は当社がいずれかの金融商品取引所に上場している場合にのみ新株予約権の権利を行使することができる。

新株予約権者が死亡した場合、その相続人による新株予約権の権利行使は認めないものとする。

5. 本新株予約権について譲渡、担保権の設定、その他一切の処分をすることができないものとする。

6. 当社が合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する募集新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、（注）2に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、（注）3で定められた行使価額を調整して得られる再編後払込金額に上記に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。

新株予約権を行使することができる期間

新株予約権を行使できる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使の条件

（注）4に準じて決定する。

増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、上記の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要するものとする。

新株予約権の取得事由

ア 新株予約権者が権利行使をする前に、当社が消滅会社となる合併契約承認の議案又は当社が完全子会社となる株式交換契約承認もしくは株式移転計画承認の議案につき株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社取締役会決議がなされた場合）は、当社取締役会が別途定める日をもって、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

イ 新株予約権者が権利行使をする前に、（注）4に規定する条件により権利を行使する条件に該当しなくなった場合、及び新株予約権者が保有する新株予約権を放棄した場合には、当社取締役会が別途定める日をもって、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

7. 2018年1月12日開催の取締役会決議により、2018年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。
8. 行使期間の満了により、有価証券報告書提出日現在の付与対象者はおりません。

第8回新株予約権（2018年3月13日取締役会決議）

	事業年度末現在 (2026年2月28日)
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 3 従業員 54(注)10
新株予約権の数(個)	2,660 [2,640]
新株予約権の目的となる株式の種類、新株予約権の目的となる株式の数(株)	普通株式 266,000 [264,000] (注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,113(注)3
新株予約権の行使期間	自 2019年6月1日 至 2028年5月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,113 資本組入額 557
新株予約権の行使の条件	(注)7
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)6
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)9

当事業年度の末日(2026年2月28日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2026年4月30日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[ ]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

(注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。

2. 当社が株式分割(当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。)又は株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割(又は併合)の比率

また、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割又は資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ付与株式数の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、付与株式数は適切に調整されるものとする。

3. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、本新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行又は自己株式の処分を行う場合(新株予約権の行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。)、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株あたり払込金額}}{\text{新規発行前の1株あたりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、本新株予約権の割当日後、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

4. 新株予約権を行使することができる期間

本新株予約権を行使することができる期間(以下、「行使期間」という。)は、2019年6月1日から2028年5月31日までとする。

5. 増加する資本金及び資本準備金に関する事項

本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とする。計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から、上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

6. 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による本新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。

7. 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、行使期間における直前事業年度の有価証券報告書の事業の状況に記載された商品取扱高（返品後）が30,000百万円を超過し、損益計算書の営業利益が3,000百万円を超過した場合に限り、割り当てられた本新株予約権を行使することができるものとする。（なお、当社が連結損益計算書を作成している場合には商品取扱高は連結商品取扱高によるものとし、営業利益は連結損益計算書における営業利益によるものとする。）

上記の判定において、国際財務報告基準の適用等により参照すべき商品取扱高・営業利益等の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を取締役会にて定めるものとする。

新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、当社又は当社関係会社の取締役又は従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

8. 新株予約権の取得に関する事項

当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる会社分割についての分割契約もしくは分割計画、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画について株主総会の承認（株主総会の承認を要しない場合には取締役会決議）がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権の全部を無償で取得することができる。

新株予約権者が権利行使をする前に、上記7に定める規定により本新株予約権の行使ができなくなった場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

9. 組織再編行為の際の新株予約権の取扱い

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件を勘案のうえ、上記2に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記3で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、上記に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。

新株予約権を行使することができる期間

上記4に定める行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から上記4に定める行使期間の末日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記5に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

その他新株予約権の行使の条件

上記7に準じて決定する。

新株予約権の取得事由及び条件

上記 8 に準じて決定する。

その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

10. 退職による権利喪失等により、有価証券報告書提出日現在の付与対象者の区分及び人数は取締役 1 名、従業員 22 名、合計 23 名となっております。

第9回新株予約権（2022年5月27日取締役会決議）

	事業年度末現在 (2026年2月28日)
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 1
新株予約権の数(個)	4,000
新株予約権の目的となる株式の種類、新株予約権の目的となる株式の数(株)	普通株式 400,000 (注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,116(注)3
新株予約権の行使期間	自 2022年6月14日 至 2032年6月13日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,116 資本組入額 558
新株予約権の行使の条件	(注)7
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)6
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)9

当事業年度の末日(2026年2月28日)における内容を記載しております。なお、当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2026年4月30日)にかけて変更された事項はありません。

(注)1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。

2. 当社が株式分割(当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。)又は株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割(又は併合)の比率

また、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割又は資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ付与株式数の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、付与株式数は適切に調整されるものとする。

3. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、本新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行又は自己株式の処分を行う場合(新株予約権の行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。)、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株あたり払込金額}}{\text{新規発行前の1株あたりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割、株式交換もしくは株式交付を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

4. 新株予約権を行使することができる期間

本新株予約権を行使することができる期間(以下、「行使期間」という。)は、2022年6月14日から2032年6月13日までとする。

5. 増加する資本金及び資本準備金に関する事項

本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とする。計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から、上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

6. 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による本新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。

7. 新株予約権の行使の条件

割当日から本新株予約権の行使期間の終期に至るまでの間に東京証券取引所における当社普通株式の普通取引終値の1ヶ月間(当日を含む21取引日)の平均値が一度でも行使価額に30%を乗じた価格を下回った場合、新株予約権者は残存するすべての本新株予約権を行使期間の満期日までに行使しなければならないものとする。但し、次に掲げる場合に該当するときはこの限りではない。

(a) 当社の開示情報に重大な虚偽が含まれることが判明した場合

(b) 当社が法令や金融商品取引所の規則に従って開示すべき重要な事実を適正に開示していなかったことが判明した場合

(c) 当社が上場廃止となったり、倒産したり、その他本新株予約権発行日において前提とされていた事情に大きな変更が生じた場合

(d) その他、当社が新株予約権者の信頼を著しく害すると客観的に認められる行為をなした場合

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

8. 新株予約権の取得に関する事項

当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる会社分割についての分割契約もしくは分割計画、当社が完全子会社となる株式交換契約、株式交付計画もしくは株式移転計画、当社が全部取得条項付種類株式の全部を取得すること、特別支配株主による株式売渡請求、または株式併合について株主総会の承認(株主総会の承認を要しない場合には取締役会決議)がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権の全部を無償で取得することができる。

新株予約権者が上記7に定める規定により新株予約権を行使する権利を喪失した場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、当該新株予約権を無償で取得することができる。

9. 組織再編行為の際の新株予約権の取扱い

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件を勘案のうえ、上記2に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記3で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、上記に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。

新株予約権を行使することができる期間

上記4に定める行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から上記4に定める行使期間の末日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記5に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

その他新株予約権の行使の条件  
 上記7に準じて決定する。  
 新株予約権の取得事由及び条件  
 上記8に準じて決定する。  
 その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年3月1日～ 2021年2月28日 (注)1	33,200	11,482,760	8,917	1,335,657	8,917	1,235,657
2021年3月1日～ 2022年2月28日 (注)1	4,600	11,487,360	1,600	1,337,258	1,600	1,237,258
2022年7月29日 (注)2	-	11,487,360	1,287,258	50,000	-	1,237,258

(注)1. 新株予約権の行使によるものであります。

2. 2022年5月27日開催の定時株主総会決議に基づき、2022年7月29日に無償減資を行いました。この無償減資等の結果、資本金が1,287,258千円減少しております。

(5) 【所有者別状況】

2026年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式 の状況 (株)
	政府及び地方 公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	2	25	39	44	13	4,230	4,353	-
所有株式数 (単元)	-	1,027	12,703	8,300	12,277	31	80,469	114,807	6,660
所有株式数の割 合(%)	-	0.90	11.06	7.23	10.69	0.03	70.09	100.00	-

(注) 自己株式1,127,423株は、「個人その他」に11,274単元、「単元未満株式の状況」に23株含まれております。

(6)【大株主の状況】

2026年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
田中 裕輔	東京都世田谷区	1,016,960	9.82
BBH CO FOR ARCUS JAPAN VALUE FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	PO BOX 1093, QUEENSGATE HOUSE, SOUTH CHURCH STREET GEORGE TOWN CAYMAN ISLANDS KY1-1102 (東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 決済事業部)	499,700	4.82
上田八木短資株式会社	大阪市中央区高麗橋2丁目4-2	472,700	4.56
吉岡 裕之	大阪府茨木市	451,000	4.35
時津 昭彦	大阪府大阪市北区	430,700	4.16
楽天証券株式会社共有口	港区南青山2丁目6番21号	300,400	2.90
株式会社SHINDO	福井県あわら市伊井11字1-1	210,800	2.03
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505044 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	ONE CONGRESS STREET, SUITE 1, BOSTON, MASSACHUSETTS (東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟)	165,500	1.60
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレーMUF証券株式会社)	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K. (千代田区大手町1丁目9-7 大手町フィナンシャルシティサウスタワー)	128,026	1.24
大和証券株式会社	千代田区丸の内1丁目9番1号	115,700	1.12
計	-	3,791,486	36.60

(注)1. 2025年3月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書 21)において、ベイリー・ギフォード・アンド・カンパニー及びその共同保有者であるベイリー・ギフォード・オーバーシーズ・リミテッドが2025年3月14日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として議決権行使基準日における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。  
 なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	保有株券等の数	株券等保有割合
ベイリー・ギフォード・アンド・カンパニー	393,500株	3.43%
ベイリー・ギフォード・オーバーシーズ・リミテッド	179,000株	1.56%

2. 2025年1月17日及び2025年1月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書 1)において、アーカス・インベストメント・リミテッドが2025年1月16日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として議決権行使基準日における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。  
 なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	保有株券等の数	株券等保有割合
アーカス・インベストメント・リミテッド	696,300株	6.06%

(7) 【議決権の状況】  
 【発行済株式】

2026年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,127,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,353,300	103,533	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 6,660	-	-
発行済株式総数	11,487,360	-	-
総株主の議決権	-	103,533	-

【自己株式等】

2026年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ジェイドグループ株式会社	東京都渋谷区元代々木町30番13号	1,127,400	-	1,127,400	9.81
計	-	1,127,400	-	1,127,400	9.81

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

従業員株式所有制度の概要

(株式付与ESOP信託)

当社は、2026年4月1日開催の取締役会において、当社および当社の一部子会社(以下「対象子会社」という。)の従業員(以下「対象従業員」という。)を対象とした、新たなインセンティブ・プラン「株式付与ESOP信託」(以下「本制度」という。)の導入を決議いたしました。

本制度の目的は、当社グループの企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めるとともに、当社および対象子会社において優秀な人材の確保および長期定着(リテンション)を図ることにあり、当社が策定する株式交付規程に基づき、一定の要件を充足する対象従業員に対し、当社株式および当社株式の換価処分金相当額の金銭を交付および給付する仕組みであります。

従業員に取得させる予定の株式の総数

300,000株

従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

対象従業員のうち、株式交付規程に定める受益者要件を充足する者

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2025年1月16日)での決議状況 (取得期間 2024年4月17日~2025年4月16日)	1,000,000	1,400,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	66,300	77,042,600
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	0.00	2.66
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	0.00	2.66

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	91	144,725
当期間における取得自己株式	-	-

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(譲渡制限付株式報酬による自己株式の処分)	335,000	449,905,000	-	-
その他(新株予約権の権利行使)	237,800	319,365,400	11,200	15,041,600
その他(株式付与E S O P信託導入に伴う自己株式の処分)	-	-	300,000	402,900,000
保有自己株式数	1,127,423	-	816,223	-

(注) 1. 当期間における保有自己株式数には、2026年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の権利行使もしくは単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、株式付与E S O P信託口が保有する当社株式300,000株は含まれておりません。

### 3【配当政策】

#### (1)配当に関する基本的な方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。当社の配当政策は、将来の事業展開や収益力の強化、及び経営環境の変化に備えるための内部留保を総合的に勘案したうえで、株主への安定的かつ継続的な利益還元を実施することを基本方針としております。

#### (2)毎事業年度における配当の回数についての基本的な方針

当社は、定款において毎年2月末日を基準日とした期末配当および毎年8月31日を基準日とした中間配当を行うことができる旨を定めております。現時点では、剰余金の配当として年1回の期末配当を行うことを基本方針としております。

#### (3)配当の決定機関

当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。剰余金の配当の決定機関は、期末配当については取締役会又は株主総会、中間配当については取締役会であります。

#### (4)当事業年度（第16期）の配当決定に当たっての考え方

当社は、2021年度から2024年度の4年間において、当期純利益の約70%を自己株買いに充当するとともに、43.5億円をM&Aへ投下する等、積極的な投資と還元を進めて参りました。

今後は、さらなる積極投資と株主還元を両立させるため、当期純利益（特別損益や法人税等調整額など現預金の増減を伴わない一過性の損益を除く）の70%を成長投資へ充当し、残り30%を自己株買いでなく「配当」という直接的な方法により株主に還元する方針といたしました。

当事業年度におきましては、親会社株主に帰属する当期純利益が大幅に増加し、当初計画を大きく上回る極めて好調な業績となったことを踏まえ、上記の方針に基づき、期末配当金を1株当たり30円と決定いたしました。

#### (5)内部留保資金の用途

中長期的な成長投資方針に基づき、蓄積された内部留保資金については、当期純利益の70%を目安として主に以下の領域に充てたいします。

- ・ 物流・ITインフラの高度化  
倉庫設備の拡充や、WMS（倉庫管理システム）をはじめとするEC基幹システムの内製開発・機能強化。
- ・ 戦略的M&Aの推進  
既存事業とのシナジーが期待できるブランドの取得や、新たな事業領域への積極的な投資。
- ・ 組織力・人材への投資  
優秀な人材の確保・育成、およびESOP信託等のインセンティブ制度の拡充。

#### 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

(コーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方)

当社は、当社サービスの利用者を含めた全てのステークホルダーの利益を重視し、長期的、継続的に企業価値を最大化させるために、コーポレート・ガバナンスの確立を重要な経営課題であると認識しております。

当該認識のもと、当社の取締役、従業員は、それぞれの役割を理解し、法令、社会規範、倫理などについて継続的に意識向上を図るとともに、企業規模の拡大に合わせて、適正な経営組織体制を整備運用して参ります。

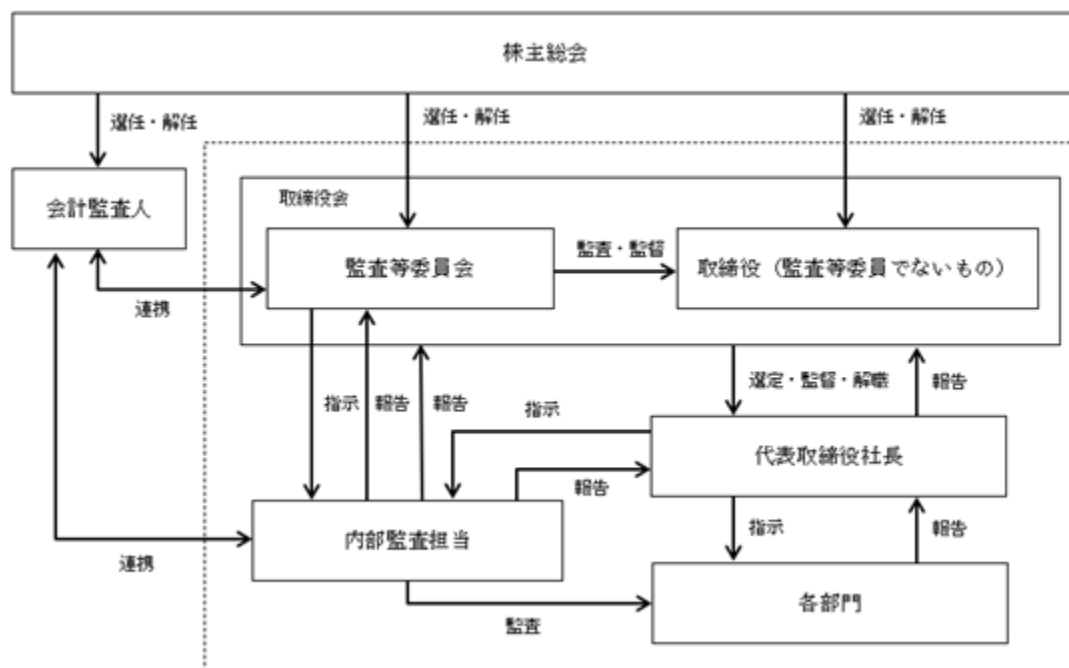
##### 企業統治の体制

当社は、2017年5月26日開催の定時株主総会における定款変更の承認を受けて、監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

当社は、事業活動を通じ企業価値の継続的な向上を実現するために機動的な経営判断が重要であり、また一方で経営の健全性と透明性を維持する体制の構築も重要と認識しております。当社は2016年8月に経営判断の場面における独立的な立場からの意見反映を目的に、独立性のある社外取締役を選任しコーポレート・ガバナンスの強化を図りましたが、さらなるコーポレート・ガバナンスの強化のため監査等委員会設置会社へ移行し、業務執行に係る意思決定の迅速化を図りつつ、監査等委員会による業務執行の適法性・妥当性の監査・監督を通じた透明性の高い経営の実現を図って参ります。

取締役会の構成は、業務執行取締役2名と監査等委員である取締役3名(全て社外取締役)の体制であり、取締役会に占める業務執行取締役はその過半数に達しておらず、従来よりも監視・監督機能の強化が図られております。また常勤の監査等委員はおりませんが、移行前の社外監査役が監査等委員会委員長に就任しており、監査等委員会委員長と内部補助者及び内部監査との連携を図る事により、監査役会設置会社と同等の監査の実効性を確保して参ります。

当社の業務の意思決定・執行及び監査についての体制は、下図のとおりであります。



##### a. 取締役会

当社の取締役会は、取締役5名(うち監査等委員である取締役3名)により構成されており、経営の意思決定を合理的かつ迅速に行う事を目的に毎月1回の定時取締役会を開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。

議長：代表取締役 田中裕輔

構成員：取締役(監査等委員) 鈴木智也、取締役(監査等委員) 廣田聡、取締役(監査等委員) 落合敦子、取締役 高志成俊

b. 監査等委員会

当社の監査等委員会は、毎月1回の監査等委員会を開催します。当社の監査等委員会は監査等委員である取締役3名(全て社外取締役)により構成されており、重要会議の出席、代表取締役・取締役(監査等委員であるものを除く)・重要な使用人との意見交換、重要書類の閲覧などを通じ厳格な監査を実施します。

また、会計監査人の会計監査の把握や内部補助者及び内部監査との連携を図り、定例会合での情報共有により監査の実効性確保に努めております。

議長：廣田聡

構成員：鈴木智也、落合敦子

内部統制システムの整備の状況

当社は業務の適正を確保するための体制として2017年5月に「内部統制システム構築の基本方針」を決議しておりますが、2019年4月の取締役会にて以下の内容で変更決議を行い、当該基本方針に基づいた運営を行っております。

a. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (a) 取締役会は、コンプライアンス体制の基礎として、コンプライアンスに関する基本方針を定めると共に、コンプライアンス行動規範を制定し、取締役及び使用人にコンプライアンスの実践を求める。
- (b) 取締役及び使用人は、当社の定めた諸規程に従い、企業倫理の遵守及び浸透を行う。
- (c) 内部監査人を設置して、取締役及び使用人の法令等遵守状況についての監査を実施し、その結果を代表取締役に報告する。
- (d) 監査等委員である取締役は、取締役会に出席し、監督を行うほか、業務執行状況の調査等を通じて、取締役(監査等委員であるものを除く)の職務の執行を監査する。
- (e) 反社会的勢力の排除を基本方針に掲げ、反社会的勢力対応規程及び反社会的勢力対応マニュアルを整備するとともに、外部の専門機関との連携を図る。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報については、文書(電磁的記録を含む)の整理保管、保存期限及び廃棄ルール等を定めた文書管理規程に基づき、適正な保存及び管理を行う。また、取締役はこれらの文書を常時閲覧できるものとする。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (a) リスク管理規程を整備し、事業活動を行うにあたり経営の脅威となりうる要因への対応力を強化する。代表取締役を全社的なリスク管理の最高責任者としたリスク管理体制を構築する。
- (b) 不測の事態が発生した場合には、対策本部を設置し、必要に応じて外部専門機関とともに迅速かつ確な対応を行い、被害・損失の拡大を防止し、これを最小限にとどめるための体制を整備する。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (a) 社内の指揮・命令系統の明確化及び責任体制の確立を図るため、経営組織、業務分掌及び職務権限に関する諸規程を制定する。
- (b) 取締役会は月に1回定期的に、又は必要に応じて適時に開催し、法令に定められた事項のほか、経営理念、経営方針、中期経営計画及び年次予算を含めた経営目標の策定及び業務執行の監督等を行う。

e. 当社の業務の適正性を確保するための体制

- (a) 関係会社管理規程に基づき、重要な子会社の重要な決議事項は、事前に当社取締役会にて審議承認又は報告を行う。重要な子会社の規程は、原則として当社規程を準用するものとする。
- (b) 子会社の事業活動に係るリスク管理については、当社のリスク管理規程を準用し、対応する。
- (c) 子会社の取締役及び監査役には、原則として当社の取締役、使用人を構成員に含めることとし、当社内の情報伝達を円滑にすると共に、当社全体の業務の適正な遂行を確保する。

f. 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項及びその使用人の取締役(監査等委員であるものを除く)からの独立性に関する事項

- (a) 監査等委員会の監査の実効性を高め、かつ、その職務の円滑な遂行を確保するため、監査等委員会の要請に応じ、管理部経理・財務チームに監査業務を補助させる。
- (b) 当該使用人の任命、異動、評価、懲戒、賃金等の改定に関しては、監査等委員会の意見を尊重した上で行うものとし、当該使用人の取締役(監査等委員であるものを除く)からの独立性を確保する。

g. 取締役(監査等委員であるものを除く)及び使用人が監査等委員又は監査等委員会に報告をするための体制  
その他の監査等委員又は監査等委員会への報告に関する体制、並びに当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

- (a) 会計監査人、取締役(監査等委員であるものを除く)、内部監査部門等の使用人その他の者から報告を受けた監査等委員は、これを監査等委員会に報告する。

- (b) 監査等委員会は、必要に応じて、会計監査人、取締役（監査等委員であるものを除く）、内部監査人等の使用人その他の者に対して報告を求める。
- (c) 取締役及び使用人は内部通報制度により、監査等委員である取締役・内部監査部門等の使用人に報告を行うことができる。報告した者に対し、当該報告をしたことを理由として、不利益な取扱いを行わない。これを内部通報制度として明文化すると共に、社内への浸透を図る。
- h. 監査等委員である取締役の職務の執行（監査等委員会の職務の執行に関するものに限る）について生ずる費用の前払又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
- 監査等委員である取締役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続、その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理については、当社は監査等委員会の職務に必要なと認められる場合を除き、当該費用又は債務を処理する。
- i. その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ・監査等委員会は、社外取締役を含み、公正かつ透明性を担保する。
  - ・監査等委員会は、代表取締役と定期的に意見交換を行い、相互の意思疎通を図る。
  - ・監査等委員会は、会計監査人及び内部監査人と定期的に情報交換を行い、相互の連携を図る。
- j. 財務報告の信頼性を確保するための体制
- 当社は財務報告の信頼性を確保するための基本方針を定め、財務報告に係る内部統制の体制整備と有効性向上を図る。

#### リスク管理体制の整備の状況

##### a. リスク管理体制の整備状況

当社では、リスク管理に関して「リスク管理規程」を定め、代表取締役をリスク管理最高責任者、管理部門責任者をリスク管理責任者とするリスク管理体制を構築しております。リスクの把握、最適なリスク管理体制の立案、推進を図り、全社横断的なコンプライアンス体制を整備することにより、リスクの低減及びその適切な対応を図っております。

具体的には、リスク管理責任者が、リスク管理に関する方針、識別されたリスクやその評価、リスク対策、防止に関する事項をリスク管理最高責任者へ報告を行っております。

また、リスクが顕在化し、事故が発生した場合には、代表取締役を本部長とする対策本部を組織し、事故の解決にあたります。

##### b. コンプライアンス体制の整備状況

当社は、企業価値の持続的向上のためには、全社的なコンプライアンス体制の強化・推進が必要不可欠であると認識し、「コンプライアンス規程」を定め、その周知徹底を図っており、管理部門責任者を責任者としたコンプライアンスの推進体制を構築しております。

また、内部通報制度を整備しており、役職員の法令違反等について、管理部人事・総務チームを窓口として通報する仕組みを構築しております。

##### c. 情報セキュリティ、個人情報保護法等の体制の整備状況

当社は、情報セキュリティについて「情報セキュリティ管理規程」を定め、当社が保有する情報資産の取扱い及び当該情報資産の機密性、完全性、可用性を維持・確保し、情報資産の適正な管理運用する体制について規定しております。

また、個人情報保護については、「個人情報保護管理規程」において当社が取り扱う個人情報の適切な保護のための社内体制・ルール等を定めております。当社においては、管理部門責任者を個人情報保護管理者と定め、個人情報保護の体制を整備しております。

#### 定款で定めた取締役の定数

当社の取締役（監査等委員であるものを除く）は9名以内、監査等委員である取締役は4名以内とする旨を定款に定めております。

#### 取締役の選任決議

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

#### 定款の定めにより取締役会決議とした株主総会決議事項

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

また、当社は、取締役の責任免除について、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役が期待される役割を十分に発揮できるようにすることを目的とするものであります。

なお、監査等委員会設置会社への移行に伴い、第7回定時株主総会（2017年5月26日開催）終結前の行為に関する会社法第423条第1項所定の監査役（監査役であった者を含む）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

#### 責任限定契約の内容の概要

当社は、定款に取締役（業務執行取締役等であるものを除く）との間の責任限定契約に関する規定を設けており、当該定款に基づき、社外取締役全員との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

なお、監査等委員会設置会社への移行に伴い、第7回定時株主総会（2017年5月26日開催）終結前の行為に関する会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約については、なお同定時株主総会の決議による変更前の定款第34条第2項の定めるところによる旨を定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

1. 2026年5月27日(有価証券報告書提出日)現在の当社の役員の状況は、以下のとおりです。

男性4名 女性1名 (役員のうち女性の比率20%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	田中 裕輔	1980年12月5日生	2003年4月 マッキンゼー・アンド・カンパニー・ インク・ジャパン入社 2011年4月 当社入社 2011年5月 当社代表取締役就任(現任) 2022年6月 RBKJ株式会社代表取締役(現任) 2024年1月 TCB株式会社 社外取締役(現任) 2024年3月 マガシーク株式会社代表取締役(現 任) 2025年12月 株式会社ロイヤル 代表取締役(現 任) 2025年12月 株式会社ロイヤルロジスティクス 代 表取締役(現任) 2026年2月 ARIGATO株式会社 代表取締役(現 任)	(注)3	1,016
取締役	高志 成俊	1973年9月1日生	1997年4月 株式会社三和銀行(現株式会社三菱 UFJ銀行)入社 2021年3月 デジタルデータソリューション株式会 社入社 2022年4月 当社入社 2022年8月 RBKJ株式会社 取締役(現任) 2024年4月 マガシーク株式会社 取締役(現任) 2025年5月 当社取締役(現任) 2026年2月 ARIGATO株式会社 取締役(現任)	(注)3	50
取締役 (監査等委員)	鈴木 智也	1977年4月8日生	2000年4月 東日本電信電話株式会社入社 2001年1月 株式会社ユーキュレート創業 取締役 2004年4月 株式会社エムアウト入社 2007年11月 日興アントファクトリー株式会社 (現 アント・キャピタル・パート ナーズ株式会社)入社、リード・キャ ピタル・マネージメント株式会社出向 2011年9月 当社社外取締役 2012年11月 リード・キャピタル・マネージメント 株式会社 転籍 パートナー 2014年12月 リード・キャピタル・マネージメント 株式会社 取締役 パートナー 2016年11月 当社社外取締役退任 2018年3月 株式会社アコード・ベンチャーズ取締 役ゼネラルパートナー(現任) 2019年5月 当社取締役(監査等委員)(現任) 2021年12月 株式会社ソルブレイン 社外取締役 (現任) 2023年11月 CAMELORS株式会社 社外取締役(現 任) 2023年12月 株式会社PID 社外取締役(現任) 2025年9月 株式会社ウイルプラスホールディング ス 社外取締役 監査等委員(現任)	(注)4	9

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 (監査等委員)	廣田 聡	1977年7月8日生	2002年10月 三井安田法律事務所(現 三井法律事務所)入所 2008年8月 Haynes and Boone LLP入所 2009年10月 アント・キャピタル・パートナーズ株式会社入社 2014年4月 株式会社ビーグリー入社 2015年4月 H C A法律事務所開所代表弁護士(現任) 2015年9月 株式会社ウイルプラスホールディングス社外取締役(現任) 2016年5月 当社社外監査役 2016年5月 株式会社Psychic VR Lab(現 株式会社STYLY)社外監査役(現任) 2017年5月 当社取締役(監査等委員)(現任) 2018年8月 株式会社Casa社外監査役(現任)	(注)4	-
取締役 (監査等委員)	落合 敦子	1974年11月9日生	1997年4月 株式会社野村総合研究所入所、野村證券株式会社金融研究所、出向/転籍 2004年7月 ゴールドマン・サックス証券株式会社入社 2009年10月 Goldman Sachs International Plc(英国)転籍 2012年10月 Goldman Sachs (Asia) LLC(香港)転籍 2014年9月 公益社団法人日本フィランソロピー協会入職 2019年7月 ビジネス向けプロコーチとして独立(現任) 2021年5月 当社取締役(監査等委員)(現任) 2022年5月 カディラキャピタルマネジメント株式会社 監査役(現任)	(注)4	-
計					1,076

- (注)1. 鈴木智也、廣田聡、落合敦子は、社外取締役であります。
2. 当社の監査等委員会の体制は次のとおりであります。  
 委員長 廣田聡、委員 鈴木智也、委員 落合敦子
3. 2025年5月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間であります。
4. 2025年5月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間であります。
5. 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
大塚 則子	1975年12月20日生	1998年4月 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所 2001年5月 公認会計士登録 2014年1月 大塚則子公認会計士事務所 代表就任(現任) 2017年4月 監査法人フロンティアパートナークラウド社員(現任) 2017年8月 一般財団法人スポーツヒューマンキャピタル(現 公益財団法人スポーツヒューマンキャピタル)監事就任(現任) 2018年7月 合同会社ノル総合研究所設立代表取締役(現任) 2019年3月 一般社団法人大学スポーツ協会監事(現任) 2022年9月 公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ監事(現任) 2023年6月 公益財団法人日本バドミントン協会理事(現任) 2023年6月 フランスベッドホールディングス株式会社 社外取締役(監査等委員)(現任)	-

2. 2026年5月28日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「取締役2名選任の件」を提案しております。当該議案が承認可決された場合、当社の役員の状況は以下のとおりとなります。なお、役員の役職等については、当該定時株主総会の直後に開催が予定される取締役会の決議事項の内容を含めて記載しております。

男性4名 女性1名 （役員のうち女性の比率20%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	田中 裕輔	1980年12月5日生	2003年4月 マッキンゼー・アンド・カンパニー・ インク・ジャパン入社 2011年4月 当社入社 2011年5月 当社代表取締役就任（現任） 2022年6月 RBKJ株式会社代表取締役（現任） 2024年1月 TCB株式会社 社外取締役（現任） 2024年3月 マガシーク株式会社代表取締役（現 任） 2025年12月 株式会社ロイヤル 代表取締役（現 任） 2025年12月 株式会社ロイヤルロジスティクス 代 表取締役（現任） 2026年2月 ARIGATO株式会社 代表取締役（現 任）	(注)3	1,016
取締役	高志 成俊	1973年9月1日生	1997年4月 株式会社三和銀行（現株式会社三菱 UFJ銀行）入社 2021年3月 デジタルデータソリューション株式会 社入社 2022年4月 当社入社 2022年8月 RBKJ株式会社 取締役（現任） 2024年4月 マガシーク株式会社 取締役（現任） 2025年5月 当社取締役（現任） 2026年2月 ARIGATO株式会社 取締役（現任）	(注)3	50
取締役 (監査等委員)	鈴木 智也	1977年4月8日生	2000年4月 東日本電信電話株式会社入社 2001年1月 株式会社ユーキュレート創業 取締役 2004年4月 株式会社エムアウト入社 2007年11月 日興アントファクトリー株式会社 (現 アント・キャピタル・パート ナーズ株式会社)入社、リード・キャ ピタル・マネージメント株式会社出向 2011年9月 当社社外取締役 2012年11月 リード・キャピタル・マネージメント 株式会社 転籍 パートナー 2014年12月 リード・キャピタル・マネージメント 株式会社 取締役 パートナー 2016年11月 当社社外取締役退任 2018年3月 株式会社アコード・ベンチャーズ取締 役ゼネラルパートナー（現任） 2019年5月 当社取締役（監査等委員）（現任） 2021年12月 株式会社ソルブレイン 社外取締役 (現任) 2023年11月 CAMELORS株式会社 社外取締役（現 任） 2023年12月 株式会社PID 社外取締役（現任） 2025年9月 株式会社ウイルプラスホールディング ス 社外取締役 監査等委員（現任）	(注)4	9

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 (監査等委員)	廣田 聡	1977年7月8日生	2002年10月 三井安田法律事務所(現 三井法律事務所)入所 2008年8月 Haynes and Boone LLP入所 2009年10月 アント・キャピタル・パートナーズ株式会社入社 2014年4月 株式会社ビーグリー入社 2015年4月 H C A法律事務所開所代表弁護士(現任) 2015年9月 株式会社ウイルプラスホールディングス社外取締役(現任) 2016年5月 当社社外監査役 2016年5月 株式会社Psychic VR Lab(現 株式会社STYLY)社外監査役(現任) 2017年5月 当社取締役(監査等委員)(現任) 2018年8月 株式会社Casa社外監査役(現任)	(注)4	-
取締役 (監査等委員)	落合 敦子	1974年11月9日生	1997年4月 株式会社野村総合研究所入所、野村證券株式会社金融研究所、出向/転籍 2004年7月 ゴールドマン・サックス証券株式会社入社 2009年10月 Goldman Sachs International Plc(英国)転籍 2012年10月 Goldman Sachs (Asia) LLC(香港)転籍 2014年9月 公益社団法人日本フィランソロピー協会入職 2019年7月 ビジネス向けプロコーチとして独立(現任) 2021年5月 当社取締役(監査等委員)(現任) 2022年5月 カディラキャピタルマネジメント株式会社 監査役(現任)	(注)4	-
計					1,076

- (注)1. 鈴木智也、廣田聡、落合敦子は、社外取締役であります。
2. 当社の監査等委員会の体制は次のとおりであります。  
 委員長 廣田聡、委員 鈴木智也、委員 落合敦子
3. 2026年5月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間であります。
4. 2025年5月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間であります。
5. 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
大塚 則子	1975年12月20日生	1998年4月 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所 2001年5月 公認会計士登録 2014年1月 大塚則子公認会計士事務所 代表就任(現任) 2017年4月 監査法人フロンティアパートナークラウド社員(現任) 2017年8月 一般財団法人スポーツヒューマンキャピタル(現 公益財団法人スポーツヒューマンキャピタル)監事就任(現任) 2018年7月 合同会社ノル総合研究所設立代表取締役(現任) 2019年3月 一般社団法人大学スポーツ協会監事(現任) 2022年9月 公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ監事(現任) 2023年6月 公益財団法人日本バドミントン協会理事(現任) 2023年6月 フランスベッドホールディングス株式会社 社外取締役(監査等委員)(現任)	-

社外役員の状況

当社は社外取締役3名を選任しております。

社外取締役（監査等委員）廣田聡氏との間には、特別な利害関係はありません。

社外取締役（監査等委員）鈴木智也氏との間には、特別な利害関係はありません。なお、鈴木智也氏は当社株式9,400株(保有割合0.08%)を保有しております。

社外取締役（監査等委員）落合敦子氏との間には、特別な利害関係はありません。

社外取締役は高い独立性を有しており、当社のコーポレート・ガバナンスにおける、経営の健全性・透明性向上を果たす機能を担っております。

当社は、社外取締役を選任するための独立性に関する基準又は方針等については特に定めていないものの、取締役会の過半数以上を社外取締役とすることで経営の健全性・透明性向上を果たすことができると考えており、その選任にあたっては、東京証券取引所の定めている独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

（東京証券取引所の定める独立役員の独立性に関する判断基準の概要）

次のaからfまでのいずれかに該当している場合におけるその状況等を総合的に勘案する。

- a. 当該会社の親会社又は兄弟会社の業務執行者
- b. 当該会社を主要な取引先とする者若しくはその業務執行者又は当該会社の主要な取引先若しくはその業務執行者
- c. 当該会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家又は法律専門家
- d. 過去においてaからcに該当していた者
- e. 当該会社の主要株主
- f. 次の（a）から（c）までに掲げる者（重要でないものを除く）の近親者
  - （a）aからeまでに掲げる者
  - （b）当該会社又はその子会社の業務執行者（社外監査役を独立役員とするとき、業務執行者でない取締役、会計参与を含む）
  - （c）過去において（b）に該当していた者

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

（1）コーポレート・ガバナンスの概要 企業統治の体制及び 内部統制システムの整備の状況に記載のとおり、情報を共有し、連携体制をとっております。

（3）【監査の状況】

監査等委員会監査の状況

当社の監査等委員会は、毎月1回の監査等委員会を開催します。当社の監査等委員会は監査等委員である取締役3名（全て社外取締役）により構成されており、重要会議の出席、代表取締役・取締役（監査等委員であるものを除く）・重要な使用人との意見交換、重要書類の閲覧などを通じ厳格な監査を実施します。

当事業年度において当社は監査当委員会を12回開催しており、個々の監査等委員の出席状況については以下の通りです。

氏名	開催回数	出席回数
鈴木 智也	12回	12回
廣田 聡	12回	12回
落合 敦子	12回	12回

また、会計監査人の会計監査の把握や内部補助者及び内部監査との連携を図り、定例会合での情報共有により監査の実効性確保に努めております。

内部監査の状況

内部監査につきましては、監査、報告の独立性を確保したうえで、代表取締役により指名された管理部管理職（1名）が内部監査担当者を兼務しており、また、管理部の監査につきましては、管理部以外の部門の管理職が担当しております。内部監査は、「内部監査規程」に基づき、会社の業務活動が、法令、定款及び諸規定に基づき適切かつ合理的に遂行され、経営目的達成に適切かつ効率的に機能しているかを確認し、監査結果について代表取締役、取締役会及び監査等委員会に報告すると共に、業務改善・能率向上のために必要な助言・勧告をしております。

また、監査等委員会委員長と内部補助者、内部監査及び会計監査人との連携を図る事により、監査の実効性を確保しております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

UHY東京監査法人

b. 継続監査期間

5年間

c. 業務を執行した公認会計士

指定社員 業務執行社員 谷田 修一

指定社員 業務執行社員 安河内 明

d. 監査業務に係る補助者の構成

監査業務にかかる補助者の構成は公認会計士3名その他6名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

UHY東京監査法人については、監査体制、独立性、監査品質および監査報酬の相当性等を総合的に勘案した結果、当社の会計監査人として選任しております。

f. 監査等委員及び監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、会計監査人の能力・体制、監査計画並びにその遂行状況及び監査報酬が合理的かつ妥当であることを確認し、監査実績などを踏まえたうえで、会計監査人を総合的に評価し、選定について判断しております。

監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	36,000	-	37,500	-
連結子会社	6,000	-	3,000	-
計	42,000	-	40,500	-

監査公認会計士等と同一のネットワーク(UHY)に対する報酬(を除く)  
 該当事項はありません。

その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容  
 該当事項はありません。

監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

監査報酬の決定方針

当社の事業規模や特性に照らして監査計画、監査内容、監査日数等を勘案、双方協議し、監査等委員会の同意を得た上で監査報酬を決定しております。

監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて検討を行った結果、会計監査人の報酬等の額について会社法第399条第1項の同意の判断をしております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針を役員規程において定めており、その内容は取締役（監査等委員であるものを除く）、監査等委員である取締役の別に株主総会の決議によってその上限を定め、取締役（監査等委員であるものを除く）各個人への配分は取締役会が決定するか、取締役会の一任の決定により代表取締役が行うこととし、また、取締役（監査等委員であるものを除く）各個人への配分は監査等委員会が決定することとしています。

当社の役員の報酬に関しては、2017年5月26日開催の第7回定時株主総会において取締役（監査等委員であるものを除く）については年額300,000千円（固定報酬：150,000千円、業績連動報酬：150,000千円）、監査等委員である取締役については年額30,000千円以内の範囲内で支給することと決議されております。

上記限度額の枠内で、固定報酬に関しては取締役会にて決定し、業績連動報酬に関しては、取締役会にて代表取締役に関しては連結営業利益（連結が無い場合は単体）の1%を、平取締役に関しては同0.2%を支給することを決定し監査等委員会の同意を得ております。

また、2019年5月30日開催の第9回定時株主総会において、当社の取締役（監査等委員である取締役を除く）を対象とした譲渡制限付株式報酬制度を新たに導入することが決議され、上記の報酬限度額とは別枠とし、年額700,000千円以内としております。加えて、2025年5月29日開催の第15回定時株主総会において、当社の取締役（監査等委員である取締役を除く）を対象とした譲渡制限付株式報酬制度を新たに導入することが決議され、上記の報酬限度額とは別枠とし、年額580,000千円以内としております。

イ．取締役の固定報酬

取締役会において各取締役（監査等委員であるものを除く）個人への配分を決定しております。また、監査等委員である取締役については、監査等委員会の協議で決定しております。

ロ．取締役（監査等委員であるものを除く）の業績連動報酬

当事業年度の業績連動報酬の支給額は31,688千円です。

ハ．取締役（監査等委員であるものを除く）の株式報酬（ストック・オプションとしての新株予約権による報酬及び譲渡制限付株式報酬）

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く）を対象に、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株主との一層の価値共有を進めることを目的に、ストック・オプションとしての新株予約権による報酬制度及び譲渡制限付株式報酬制度を導入しております。なお、譲渡制限付株式報酬について、譲渡制限期間は10年から20年と定めており、その期間は譲渡を含む処分ができない設計となっております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	株式報酬	
取締役(監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	122,064	50,850	31,688	39,526	2
取締役(監査等委員)	6,000	6,000	-	-	3

- (注) 1. 当社は、2017年5月26日付で監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行しております。  
 2. 株式報酬の金額は当事業年度の費用計上額を記載しております。  
 3. 当社は過去より営業利益を最重要指標としていることから、役員業績連動報酬の決定に際しても営業利益を使用しております。なお、当連結会計年度における連結営業利益は、2,403,672千円となっております。

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的（政策保有目的）である投資株式の区分について、以下の通り定めております。

・純投資目的の株式

専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする投資株式をいいます。なお、当該株式の発行者が当社の株式を保有する関係にある場合や、売却に関して発行者の応諾を要するなど、発行者との関係において売却を妨げる事情が存在する株式は、純投資目的には含めないものとします。

・純投資目的以外の目的の株式（政策保有株式）

取引関係の維持・強化や、中長期的な企業価値向上に資すると判断した投資株式をいいます。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、原則として政策保有株式を保有しない方針ですが、取引関係の維持・強化等、経営戦略上の重要性が認められる場合に限り、必要最小限の範囲で保有することがあります。保有の適否については、毎期、取締役会において、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を総合的に検証し、保有継続の妥当性を確認しております。なお、現在保有する純投資目的以外の目的の投資株式は、すべて非上場株式であるため、具体的な銘柄の検証内容等の記載は省略しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	1	0
非上場株式以外の株式	-	-

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更した投資株式

該当事項はありません。

最近5事業年度以内に保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更した投資株式

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2025年3月1日から2026年2月28日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2025年3月1日から2026年2月28日まで)の財務諸表について、UHY東京監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、専門的な情報を有する団体等が主催する研修等へ参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,993,436	2,934,837
売掛金	1,722,315	2,397,719
受取手形	30,297	20,271
電子記録債権	25,173	208,634
商品	2,154,633	2,746,567
貯蔵品	53,823	37,503
未収入金	551,236	981,452
その他	548,445	1,212,486
流動資産合計	8,079,362	10,539,472
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	496,584	753,056
減価償却累計額	158,299	210,071
建物及び構築物(純額)	338,284	542,985
機械装置及び運搬具	66,940	67,372
減価償却累計額	33,708	39,258
機械装置及び運搬具(純額)	33,231	28,114
工具、器具及び備品	645,197	755,922
減価償却累計額	396,856	363,643
工具、器具及び備品(純額)	248,341	392,278
土地	-	584,720
建設仮勘定	-	25,828
その他	12,151	13,571
減価償却累計額	12,151	12,151
その他(純額)	0	1,419
有形固定資産合計	619,857	1,575,345
無形固定資産		
商標権	666	445
ソフトウェア	735,364	436,696
のれん	769,618	655,328
顧客関連資産	7,800	-
無形固定資産合計	1,513,449	1,092,470
投資その他の資産		
投資有価証券	0	0
関係会社株式	1,118,979	1,163,891
出資金	30	-
長期前払費用	101,709	449,637
長期貸付金	10,000	9,368
敷金及び保証金	1,243,967	1,350,854
保険積立金	8,000	6,398
貸倒引当金	-	9,368
繰延税金資産	426,421	408,106
投資その他の資産合計	1,909,108	2,378,888
固定資産合計	4,042,415	5,046,704
資産合計	12,121,778	15,586,177

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	427,473	1,227,413
受託販売預り金	2,358,101	1,861,737
未払金	1,321,139	1,449,867
1年内返済予定の長期借入金	42,864	-
未払法人税等	191,687	771,305
賞与引当金	18,720	8,520
役員賞与引当金	17,665	31,688
契約負債	281,652	252,896
その他	364,478	635,429
流動負債合計	5,023,781	6,238,858
<b>固定負債</b>		
長期借入金	663,416	442,215
退職給付に係る負債	7,062	5,269
資産除去債務	34,632	161,086
繰延税金負債	-	148,643
その他	-	29,334
固定負債合計	705,111	786,550
負債合計	5,728,892	7,025,409
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	3,312,920	3,091,861
利益剰余金	4,319,281	5,890,215
自己株式	2,206,611	1,514,527
株主資本合計	5,475,590	7,517,549
新株予約権	2,920	2,344
非支配株主持分	914,374	1,040,874
純資産合計	6,392,885	8,560,767
負債純資産合計	12,121,778	15,586,177

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
売上高	19,231,316	19,441,498
売上原価	1 4,056,768	1 4,287,365
売上総利益	15,174,547	15,154,133
販売費及び一般管理費	2 13,639,508	2 12,750,461
営業利益	1,535,039	2,403,672
営業外収益		
受取利息	3,397	7,159
受取配当金	2,212	0
為替差益	-	87,675
物品売却益	1,896	3,813
助成金収入	1,159	623
債務免除益	3,925	3,386
持分法による投資利益	22,979	56,536
その他	3,512	5,424
営業外収益合計	39,082	164,620
営業外費用		
支払利息	18,222	5,815
自己株式取得費用	3,768	253
為替差損	1,008	-
その他	5	529
営業外費用合計	23,003	6,598
経常利益	1,551,117	2,561,694
特別利益		
固定資産売却益	3 7	3 1,829
投資有価証券売却益	1,079	-
短期売買利益受贈益	-	80,957
負ののれん発生益	-	54,174
特別利益合計	1,086	136,962
特別損失		
固定資産除却損	5 452,179	5 102,443
固定資産売却損	4 15,934	-
投資有価証券売却損	-	736
投資有価証券評価損	-	7,500
関係会社株式評価損	-	1,000
減損損失	-	6 35,282
その他	4,500	-
特別損失合計	472,613	146,962
税金等調整前当期純利益	1,079,590	2,551,694
法人税、住民税及び事業税	347,807	880,002
法人税等調整額	82,782	46,299
法人税等合計	430,589	926,302
当期純利益	649,000	1,625,391
非支配株主に帰属する当期純利益	83,949	54,457
親会社株主に帰属する当期純利益	565,050	1,570,933

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
当期純利益	649,000	1,625,391
包括利益	649,000	1,625,391
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	565,050	1,570,933
非支配株主に係る包括利益	83,949	54,457

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	50,000	3,359,649	3,754,230	934,316	6,229,563
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	565,050	-	565,050
自己株式の取得	-	-	-	1,353,177	1,353,177
自己株式の処分	-	46,729	-	80,883	34,154
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	46,729	565,050	1,272,294	753,972
当期末残高	50,000	3,312,920	4,319,281	2,206,611	5,475,590

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	93	93	3,089	174,681	6,407,427
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	-	565,050
自己株式の取得	-	-	-	-	1,353,177
自己株式の処分	-	-	-	-	34,154
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	93	93	169	739,693	739,430
当期変動額合計	93	93	169	739,693	14,542
当期末残高	-	-	2,920	914,374	6,392,885

当連結会計年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	50,000	3,312,920	4,319,281	2,206,611	5,475,590
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	1,570,933	-	1,570,933
自己株式の取得	-	-	-	77,187	77,187
自己株式の処分	-	221,058	-	769,270	548,212
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	221,058	1,570,933	692,083	2,041,958
当期末残高	50,000	3,091,861	5,890,215	1,514,527	7,517,549

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	-	-	2,920	914,374	6,392,885
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	-	1,570,933
自己株式の取得	-	-	-	-	77,187
自己株式の処分	-	-	-	-	548,212
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	575	126,499	125,923
当期変動額合計	-	-	575	126,499	2,167,882
当期末残高	-	-	2,344	1,040,874	8,560,767

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,079,590	2,551,694
減価償却費	529,022	418,272
のれん償却額	224,684	241,961
賞与引当金の増減額(は減少)	480	10,200
役員賞与引当金の増減額(は減少)	871	14,023
受取利息及び受取配当金	5,609	7,159
持分法による投資損益(は益)	22,979	56,536
支払利息	18,222	5,815
為替差損益(は益)	1,515	30,826
固定資産売却損益(は益)	15,927	1,829
固定資産除却損	452,179	102,443
投資有価証券売却損益(は益)	1,079	736
投資有価証券評価損益(は益)	-	7,500
関係会社株式評価損	-	1,000
負ののれん発生益	-	54,174
減損損失	-	35,282
売上債権の増減額(は増加)	642,721	813,156
棚卸資産の増減額(は増加)	1,305,216	84,581
未収入金の増減額(は増加)	53,748	430,216
仕入債務の増減額(は減少)	366,367	777,029
受託販売預り金の増減額(は減少)	405,638	496,363
未払金の増減額(は減少)	261,135	32,197
その他	201,682	300,730
小計	3,354,594	2,071,343
利息及び配当金の受取額	5,609	17,785
利息の支払額	18,222	5,815
法人税等の支払額	412,379	325,595
法人税等の還付額	9,309	5,472
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,938,912	1,763,190
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	157,818	252,014
無形固定資産の取得による支出	79,628	88,647
投資有価証券の取得による支出	-	7,500
投資有価証券の売却による収入	27,871	21,613
定期預金の払戻による収入	25,000	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 109,135	2 987,546
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	2 1,702,995	-
貸付けによる支出	1,500	3,500
貸付金の回収による収入	1,000	-
敷金及び保証金の差入による支出	254,778	49,423
敷金及び保証金の回収による収入	149,728	2,269
その他	307	1,900
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,304,044	1,362,848
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(は減少)	1,600,000	20,000
長期借入れによる収入	300,000	-
長期借入金の返済による支出	449,829	542,280
自己株式の取得による支出	1,353,177	77,187
新株予約権の行使による自己株式の処分による収入	34,000	149,700
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,069,006	489,767

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,289	30,826
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,184,239	58,599
現金及び現金同等物の期首残高	1,809,197	2,993,436
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,993,436	1 2,934,837

【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

該当事項はありません。

( 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 )

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 9社
- ・連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。

当連結会計年度において、ANBUR LEAGUE株式会社を設立したこと、および同社が株式会社ブルーシンシアおよび株式会社マルタミの株式を取得したことにより、これら各社を連結の範囲に含めておりましたが、株式会社マルタミについては、当社の連結子会社である株式会社FASCINATEを存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

当連結会計年度からARIGATO株式会社、株式会社ロイヤル、株式会社ロイヤルロジスティクスの全株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。

非連結子会社の状況

- ・非連結子会社の数 1社
- ・非連結子会社の名称 株式会社ロコンド
- ・連結の範囲から除いた理由 非連結子会社は小規模であり、総資産、当期純損益及び利益剰余金等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の状況

- ・持分法適用の非連結子会社及び関連会社数  
1社

- ・主要な会社等の名称 TCB株式会社

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の状況

該当はありません。

議決権の100分の20以上、100分の50以下を所有しているにもかかわらず関連会社としなかった会社の状況

該当はありません。

持分法の適用の手続に関する特記事項

持分法適用会社のうち、事業年度が連結会計年度と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、海外連結子会社1社を除き、連結決算日と一致しております。海外連結子会社の決算日は、12月31日であります。海外連結子会社1社については、連結決算日における仮決算は行っておりません。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

- ・市場価格のない株式等以外のもの

連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

- ・市場価格のない株式等 移動平均法による原価法を採用しております。

デリバティブ

時価法によっております。

棚卸資産	
・ 商品	月次総平均法に基づく原価法（連結貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。
・ 貯蔵品	最終仕入原価法に基づく原価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）  
定率法を採用しております。  
ただし、建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法によっております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	2年～21年
機械及び装置	2年～12年
工具、器具及び備品	2年～20年

無形固定資産（リース資産を除く）  
定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

商標権	5年～10年
自社利用のソフトウェア	2年～5年
顧客関連資産	5年

リース資産  
該当事項はありません。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金	債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
賞与引当金	従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
役員賞与引当金	取締役等に対する業績連動型賞与の支払いに備えるため、取締役等に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換によって受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。なお、履行義務の対価は、概ね3か月以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

当社グループの主要な事業における主な履行義務の内容および収益を認識する時点は、以下のとおりです。

仕入れ商品等の販売に関する収益

当社グループは買取商品等を当社が運営するECサイト「LOCONDO.jp」を始め複数の販売チャネルでユーザーから注文を受けて販売を行っており、ユーザーに対して当該商品等の引き渡しを行う義務を負っております。

これらの商品販売取引では「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取り扱いを適用し、出荷時に収益を認識しております。

これら各種の履行義務は、顧客にとって単独で又は他の資源と組み合わせると便益が得られるものではなく、受託商品の販売活動の中で発生する一連のサービスであり、相互関連性の高いサービスとなります。そのため、これら各種の履行義務を一体とし、委託者の代理人としてユーザーに対して商品を販売するという単一の履行義務を取り扱うこととしております。

受託商品の販売（ECサイト運営受託業務等を含む）に関する収益

当社は顧客（ブランド）から商品の委託を受け、当社が運営するECサイト「LOCOND0.jp」 始め複数の販売チャネルでユーザーから注文を受けて販売を行っており、顧客（ブランド）から受託販売手数料を受領しております。

これらの受託商品販売取引においても、出荷時に顧客（ブランド）からユーザーへの商品の引き渡し義務が履行されるため、出荷時に収益を認識しております。なお、ユーザーとの契約において約束された対価から、値引き、リベート、返品及び販売促進費等の名目で販売チャネルに支払う対価の一部を控除しております。

(6) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果が発現すると見積もられる期間にわたって均等償却を行っております。ただし、金額的に重要性のないものについては、発生年度に一括償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

(重要な会計上の見積り)

棚卸資産の評価

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
商品	2,154,633	2,746,567

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

棚卸資産は、取得原価をもって貸借対照表価額とし、期末における正味売却価額が取得原価よりも下落している場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額としております。また、一定期間を超えて保有する棚卸資産については、収益性の低下の事実を反映するために、過去の販売状況及び商品群ごとのライフサイクル等に基づき決定した方針により定期的に帳簿価額を切り下げております。一定期間については仕入時期に応じた商品群のライフサイクルを勘案して決定しており、また、取得価額の規則的な切下げには、商品群ごとのシーズン経過による陳腐化や値下げ販売による収益性の低下が一定の割合で発生するという仮定が含まれています。しかし、当初想定できなかった需要変動や経済情勢等により、前提となるライフサイクルに変更が生じる場合、翌連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。



(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社および関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
関係会社株式	118,979千円	163,891千円

2 当座貸越契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行(前連結会計年度は4行)と当座貸越契約を締結しております。当座貸越契約に基づく借入実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
当座貸越極度額	8,000,000千円	8,200,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	8,000,000	8,200,000

(連結損益計算書関係)

1 期末棚卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
	309,173千円	251,116千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
給料及び手当	1,840,535千円	1,977,790千円
荷造運搬費	2,654,413	2,398,083
広告宣伝費	922,464	590,131
地代家賃	2,181,418	2,346,705
決済手数料	1,008,229	847,757
支払手数料	1,528,206	1,373,490

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
工具、器具及び備品	- 千円	1,519千円
その他	7	309
計	7	1,829

4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
工具、器具及び備品	15,934千円	- 千円
計	15,934	-

5 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
建物	145,994千円	1,750千円
工具、器具及び備品	84,219	5,560
ソフトウェア	221,965	95,133
計	452,179	102,443

6 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。なお、前連結会計年度については、該当事項はありません。

場所	用途	種類	減損損失(千円)
東京都 1店舗	店舗	建物	34,791
長野県 1店舗			
大阪府 1店舗		工具、器具及び備品	491
福岡県 1店舗			

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分に基づきグルーピングしております。

各資産グループの営業損益が継続してマイナスとなった場合、店舗閉店等の意思決定をした場合、あるいは営業損益が取得時計画を著しく下回った場合等に、当該資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しております。使用価値の算定にあたっては、将来キャッシュ・フローを3.28%で割引いて算定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスである資産グループについては、ゼロとしております。

(連結包括利益計算書関係)

該当事項はありません。

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	11,487,360	-	-	11,487,360
合計	11,487,360	-	-	11,487,360
自己株式				
普通株式	721,263	971,369	58,800	1,633,832
合計	721,263	971,369	58,800	1,633,832

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加971,369株は、取締役会決議による自己株式の取得971,300株、単元未満株式の買取り69株によるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少58,800株は、ストックオプション行使による減少58,800株によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
提出会社 (親会社)	第5回新株予約権 (ストック・オプションとしての新株予約権)	-	-	-	-	-	532
	第8回新株予約権 (ストック・オプションとしての新株予約権)	-	-	-	-	-	1,988
	第9回新株予約権 (ストック・オプションとしての新株予約権)	-	-	-	-	-	400
連結子会社	-	-	-	-	-	-	-
合計		-	-	-	-	-	2,920

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度増加 株式数（株）	当連結会計年度減少 株式数（株）	当連結会計年度末株 式数（株）
発行済株式				
普通株式	11,487,360	-	-	11,487,360
合計	11,487,360	-	-	11,487,360
自己株式				
普通株式	1,633,832	66,391	572,800	1,127,423
合計	1,633,832	66,391	572,800	1,127,423

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加66,391株は、取締役会決議による自己株式の取得66,300株、単元未満株式の買取り91株によるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少572,800株は、譲渡制限付株式報酬としての処分335,000株、ストックオプション行使による減少237,800株によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計年度末残高（千円）
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
提出会社 （親会社）	第5回新株予約権 （ストック・オプションとしての新株予約権）	-	-	-	-	-	
	第8回新株予約権 （ストック・オプションとしての新株予約権）	-	-	-	-	1,944	
	第9回新株予約権 （ストック・オプションとしての新株予約権）	-	-	-	-	400	
連結子会社	-	-	-	-	-	-	
合計		-	-	-	-	2,344	

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2026年4月14日 取締役会	普通株式	310,798千円	利益剰余金	30円	2026年2月28日	2026年5月14日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
現金及び預金勘定	2,993,436千円	2,934,837千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	2,993,436	2,934,837

2. 現金及び現金同等物を対価とする事業の譲受けにかかる資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(2025年2月28日)

株式会社FASCINATE

流動資産	318,388千円
固定資産	99,712
のれん	130,560
流動負債	88,552
固定負債	210,109
株式の取得価額	250,000
現金及び現金同等物	140,864
差引: 取得による支出	109,135

マガシーク株式会社

流動資産	4,421,044千円
固定資産	1,927,112
のれん	741,161
流動負債	2,798,282
固定負債	98,591
非支配持分	655,743
株式の取得価額	3,536,700
子会社株式取得のための前払額	3,198,750
現金及び現金同等物	2,040,945
差引: 取得による収入	1,702,995

当連結会計年度（2026年2月28日）

株式会社ブルーシンシア

流動資産	516,151千円
固定資産	99,786
のれん	76,902
流動負債	95,020
固定負債	280,777
非支配持分	72,041
株式の取得価額	245,000
現金及び現金同等物	120,681
差引：取得による支出	124,318

株式会社マルタミ

流動資産	112,158千円
固定資産	23,975
のれん	21,269
流動負債	47,617
固定負債	13,000
株式の取得価額	96,786
現金及び現金同等物	10,892
差引：取得による支出	85,893

ARIGATO株式会社

流動資産	4,501千円
固定資産	15,999
のれん	29,499
株式の取得価額	50,000
差引：取得による支出	50,000

株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクス

流動資産	473,191千円
固定資産	901,056
負ののれん	54,174
流動負債	146,877
固定負債	290,782
株式の取得価額	882,413
現金及び現金同等物	155,078
差引：取得による支出	727,334

（リース取引関係）

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
1年内	2,032,994	2,289,549
1年超	11,462,103	9,172,554
合計	13,495,098	11,462,103

(金融商品関係)

(1) 金融商品の状況に関する事項

金融商品に対する取組方針

資金運用については安全性の高い預金等に限定しており、資金調達については銀行借入金によっております。

金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である売掛金及び未収入金は、顧客の債務不履行による信用リスクに晒されております。

敷金及び保証金は、建物賃貸借契約及び取引基本契約に係るものであり、差入先の債務不履行による信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金、受託販売預り金及び未払金は、その全てが1年以内の支払期日であります。

金融商品に係るリスク管理体制

イ．信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)

営業債権については、顧客毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、回収遅延債権については、個別に対応を行う体制としております。

敷金及び保証金については、差入先の信用状況を把握することにより、リスク低減を図っております。

ロ．資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

買掛金、受託販売預り金及び未払金については月次単位での支払予定を把握するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提状況等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

前連結会計年度(2025年2月28日)

(単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券	0	0	-
敷金及び保証金	1,241,867	1,167,879	73,987
資産計	1,241,867	1,167,879	73,987
長期借入金	706,280	701,601	4,678
負債計	706,280	701,601	4,678

当連結会計年度(2026年2月28日)

(単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券	0	0	-
敷金及び保証金	1,345,112	1,250,073	95,039
資産計	1,345,112	1,250,073	95,039
長期借入金	442,215	435,406	6,809
負債計	442,215	435,406	6,809

(注) 1. 現金及び預金、受取手形及び売掛金、電子記録債権、買掛金、受託販売預り金、短期借入金、未払金、未払法人税等については現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似していることから、記載を省略しております。

2. 市場価格がない株式等は、上記には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度	当連結会計年度
非上場株式	118,979千円	163,891千円
敷金及び保証金	2,100千円	5,741千円

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定

前連結会計年度(2025年2月28日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	2,993,436	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,752,613	-	-	-
電子記録債権	25,173	-	-	-
合計	4,771,222	-	-	-

当連結会計年度（2026年2月28日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	2,934,837	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,417,991	-	-	-
電子記録債権	208,634	-	-	-
合計	5,561,462	-	-	-

4. 社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
 前連結会計年度（2025年2月28日）

	1年以内 （千円）	1年超2年以内 （千円）	2年超3年以内 （千円）	3年超4年以内 （千円）	4年超5年以内 （千円）
長期借入金	-	42,864	178,864	178,864	212,864

当連結会計年度（2026年2月28日）

	1年以内 （千円）	1年超2年以内 （千円）	2年超3年以内 （千円）	3年超4年以内 （千円）	4年超5年以内 （千円）
長期借入金	-	136,215	136,000	170,000	-

金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価は、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響をあたえるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2025年2月28日）

（単位：千円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券 株式	0	-	-	0
資産計	0	-	-	0

当連結会計年度（2026年2月28日）

（単位：千円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券 株式	0	-	-	0
資産計	0	-	-	0

時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品  
 前連結会計年度（2025年2月28日）

（単位：千円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	-	1,167,879	-	1,167,879
資産計	-	1,167,879	-	1,167,879
長期借入金	-	701,601	-	701,601
負債計	-	701,601	-	701,601

当連結会計年度（2026年2月28日）

（単位：千円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	-	1,250,073	-	1,250,073
資産計	-	1,250,073	-	1,250,073
長期借入金	-	435,406	-	435,406
負債計	-	435,406	-	435,406

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価は、国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

1. その他有価証券

前連結会計年度（2025年2月28日）

（単位：千円）

	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	0	0	0
	社債	-	-	-
	小計	0	0	0
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	社債	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		0	0	0

（注）非連結子会社株式（連結貸借対照表計上額118,979千円）は、市場価格のないことから、上表のその他有価証券は含めておりません。

当連結会計年度（2026年2月28日）

（単位：千円）

	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	0	0	0
	社債	-	-	-
	小計	0	0	0
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	社債	0	0	0
	小計	-	-	-
合計		0	0	0

（注）非連結子会社株式（連結貸借対照表計上額163,891千円）は、市場価格のないことから、上表のその他有価証券は含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（2025年2月28日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	24,472	1,079	-
合計	24,472	1,079	-

当連結会計年度（2026年2月28日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	21,613	-	736
合計	21,613	-	736

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、有価証券について7,500千円（その他有価証券の社債7,500千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、財政状態の悪化等により実質価額が著しく低下した場合に、減損処理の要否を決定しております。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は確定拠出制度を採用しております。

一部の連結子会社は確定給付制度である退職一時金制度を採用しておりましたが、2024年3月31日までに退職一時金制度を廃止しております。当該制度の廃止時における過去勤務に係る部分を従業員の退職時に支給するため、「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第2号）に基づき、引き続き、連結貸借対照表の「退職給付に係る負債」として計上しております。

なお、退職一時金制度においては、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

（1）簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
退職給付に係る負債の期首残高	- 千円	7,062千円
新規連結による増加額	47,197	-
退職給付の支払額	40,134	1,792
退職給付に係る負債の期末残高	7,062	5,269

（2）退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債調整表

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
非積立型制度の退職給付債務	7,062千円	5,269千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	7,062	5,269
退職給付に係る負債	7,062	5,269
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	7,062	5,269

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第6回新株予約権 (ストック・オプション)	第7回新株予約権 (ストック・オプション)
付与対象者の区分及び人数	当社従業員 56名	当社従業員 44名
株式の種類別のストック・オプション及び自社株式オプションの数(注)	普通株式 87,000株	普通株式 92,800株
付与日	2015年11月27日	2016年5月31日
権利確定条件	[第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況] に記載のとおりであります。	[第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況] に記載のとおりであります。
対象勤務期間	定めておりません。	定めておりません。
権利行使期間	自 2017年11月28日 至 2025年9月27日	自 2018年6月1日 至 2026年3月31日

(注) 1. 第6回及び第7回新株予約権の割当時における新株予約権の目的となる株式の種類は普通株式Aであります。なお、2016年11月29日開催の臨時株主総会の決議に基づき定款が変更されたことに伴い、普通株式Aは普通株式になっております。

2. 株式に換算して記載しております。なお、2017年1月4日付で普通株式1株につき20株、2018年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しており、当該株式分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（2026年2月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第6回新株予約権 (ストック・オプション)	第7回新株予約権 (ストック・オプション)
権利確定前 (株)		
前事業年度末	-	-
付与	-	-
失効	-	-
権利確定	-	-
未確定残	-	-
権利確定後 (株)		
前事業年度末	16,400	19,800
権利確定	-	-
権利行使	16,400	8,600
失効	-	-
未行使残	-	11,200

(注) 2017年1月4日付で普通株式1株につき20株、2018年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しており、当該株式分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第6回新株予約権 (ストック・オプション)	第7回新株予約権 (ストック・オプション)
権利行使価格 (円)	625	750
行使時平均株価 (円)	1,335	1,333
付与日における公正な評価単価 (円)	-	-

(注) 2017年1月4日付で普通株式1株につき20株、2018年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しており、当該株式分割後の株式数に換算して記載しております。

### 3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

ストック・オプション及び自社株式オプション付与日時点において、当社は株式を上場していないことから、ストック・オプション及び自社株式オプションの公正な評価単価の見積方法を単価当たりの本源的価値の見積りによっております。また、単価当たりの本源的価値を算定する基礎となる自社の株式価値は、純資産価額方式に基づき算定しております。なお、算定の結果、付与時点における株式の評価額が新株予約権の行使時の払込金額と同額のため単価当たりの本源的価値は零となり、ストック・オプションの公正な評価単価も零として算定しております。

### 4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

### 5. ストック・オプション及び自社株式オプションの単価当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプション及び自社株式オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

(1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額 36,657千円

(2) 当連結会計年度に権利行使されたストック・オプション及び自社株式オプションの権利行使日における本源的価値の合計額 16,651千円

(追加情報)

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い等の適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 平成30年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

1. 権利確定条件付き有償新株予約権の概要

(1) ストック・オプションの内容

	第5回新株予約権 (ストック・オプション)	第8回新株予約権 (ストック・オプション)	第9回新株予約権 (ストック・オプション)
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 4名	当社取締役 3名 当社従業員 54名	当社取締役 1名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 408,600株	普通株式 398,000株	普通株式 400,000株
付与日	2015年11月27日	2018年3月29日	2022年6月14日
権利確定条件	[第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況]に記載のとおりであります。	[第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況]に記載のとおりであります。	[第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況]に記載のとおりであります。
対象勤務期間	定めておりません。	定めておりません。	定めておりません。
権利行使期間	自 2015年11月28日 至 2025年9月27日	自 2019年6月1日 至 2028年5月31日	自 2022年6月14日 至 2032年6月13日

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2026年2月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第5回新株予約権 (ストック・オプション)	第8回新株予約権 (ストック・オプション)	第9回新株予約権 (ストック・オプション)
権利確定前 (株)			
前事業年度末	-	-	-
付与	-	-	-
失効	-	-	-
権利確定	-	-	-
未確定残	-	-	-
権利確定後 (株)			
前事業年度末	212,800	272,000	400,000
権利確定	-	-	-
権利行使	212,800	-	-
失効	-	6,000	-
未行使残	-	266,000	400,000

単価情報

	第5回新株予約権 (ストック・オプション)	第8回新株予約権 (ストック・オプション)	第9回新株予約権 (ストック・オプション)
権利行使価格 (円)	625	1,113	1,116
行使時平均株価 (円)	1,289	-	-
付与日における公正な評価単価 (円)	-	-	-

2. 採用している会計処理の概要

新株予約権を発行したときは、その発行に伴う払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上しております。新株予約権が行使され、新株を発行するときは、当該新株予約権の発行に伴う払込金額と新株予約権の行使に伴う払込金額を、資本金および資本準備金に振り替えます。

なお、新株予約権が失効したときは、当該失効に対応する額を失効が確定した会計期間の利益として処理します。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
繰延税金資産		
棚卸資産評価損	110,228千円	118,944千円
フリーレント	170,236	143,195
譲渡制限付株式	55,169	65,269
敷金償却	44,202	48,572
契約負債	39,000	5,060
減価償却超過額	23,425	101
資産除去債務	18,059	24,176
減損損失	2,769	12,827
資産調整勘定	3,013	37,308
その他	58,555	80,214
繰延税金資産小計	524,661	535,671
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	79,632	115,847
評価性引当額小計	79,632	115,847
繰延税金資産合計	445,029	419,824
繰延税金負債		
負債調整勘定	9,620	154,485
顧客関連資産	2,698	-
その他	6,289	5,875
繰延税金負債合計	18,607	160,360
納税主体ごとに相殺し連結貸借対照表に 計上した純額		
繰延税金資産	426,421	408,106
繰延税金負債	-	148,643

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
法定実効税率	34.59%	34.59%
(調整)		
評価性引当額の増減	2.34%	1.42%
のれん償却	7.20%	3.28%
住民税均等割	0.70%	0.44%
持分法による投資損益	0.74%	0.77%
負ののれん発生益	- %	0.73%
所得拡大促進税制による税額控除	- %	0.77%
その他	0.47%	1.16%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	39.88%	36.30%

3. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社グループは、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

4. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する連結会計年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年3月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を34.5%から35.4%に変更して計算しております。

なお、この税率変更による影響は軽微であります。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

(株式会社マルタミの株式取得による企業結合)

当社は、2025年3月14日付の取締役会において、当社の連結子会社であるANBUR LEAGUE株式会社が、株式会社マルタミ(以下「マルタミ」という)の全株式を取得し(以下「本株式取得」といいます)、完全子会社化(当社の孫会社化)することを決議し、2025年3月31日に同株式を取得しております。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社マルタミ

事業の内容：紳士服・婦人服の販売

(2) 企業結合を行った主な理由

マルタミは北海道釧路市に本社、店舗を構え、モンクレール、アルマーニ、カナダグース等、主にハイブランド商品を取り扱う販売店です。本株式取得に伴い、ジェイドグループとしての商品ラインアップの強化が実現できるとともに、マルタミにおいては販路の拡大、DXの推進を実現することができます。

(3) 企業結合日

2025年3月31日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるANBUR LEAGUE株式会社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年4月1日から2025年6月29日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	96,786千円
取得の原価		96,786千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 10,000千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

21,269千円

(2) 発生原因

今後の事業展開から期待される超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産および引き受けた負債の額並びにその内訳

流動資産	112,158千円
固定資産	23,975千円
資産合計	136,134千円
流動負債	47,617千円
固定負債	13,000千円
負債合計	60,617千円

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及び算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(株式会社ブルーシンシアの株式取得による企業結合)

当社は、2025年3月14日付の取締役会において、当社の連結子会社であるANBUR LEAGUE株式会社が、株式会社ブルーシンシア（以下「ブルーシンシア」という）の株式を取得し（以下「本株式取得」といいます）、子会社化（当社の孫会社化）することを決議し、2025年3月31日に同株式を取得しております。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社ブルーシンシア

事業の内容：インターネットでの革製品の販売

(2) 企業結合を行った主な理由

ブルーシンシアは、岡山県に本社を構え、自社で企画した製品をバングラディッシュの自社専属工場生産し、自社EC及び他社モールにて主に革製品の販売を行っております。高品質なレザーと貧困国の社会問題解決をブランドコンセプトに掲げ、バングラディッシュで工場においては400名を超えるスタッフが、全て手作業により製品を製造しております。本株式取得を通じて、当社グループの販売力、マーケティングノウハウ、物流・IT基盤を活用したDXの推進による一層の事業拡大、効率化の推進が期待できます。

(3) 企業結合日

2025年3月31日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

70%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるANBUR LEAGUE株式会社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年4月1日から2026年2月28日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	245,000千円
取得の原価		245,000千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリーに対する報酬・手数料等 32,500千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

76,902千円

(2) 発生原因

今後の事業展開から期待される超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産および引き受けた負債の額並びにその内訳

流動資産	516,151千円
固定資産	99,786千円
資産合計	615,937千円
流動負債	95,020千円
固定負債	280,777千円
負債合計	375,797千円

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及び算定方法  
 当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(ARIGATO株式会社の株式取得による企業結合)

当社は、2025年6月2日付で、株式会社ベネッセコーポレーションが保有するARIGATO株式会社（以下「ARIGATO」という）の全株式を取得し（以下「本株式取得」といいます）、完全子会社といたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：ARIGATO株式会社

事業の内容：書籍、雑誌等の出版および販売

(2) 企業結合を行った主な理由

ARIGATOは、ジェイドグループの主要顧客層と同じ「30代～50代の主婦層」に圧倒的な支持を持ち、雑誌不況と言われている今でも10万部前後を売上げている雑誌「サンキュ！」の販売を行っております。雑誌内にファッション記事はあるもののその割合は競合雑誌であるESSEなどと比べても少ないため、ジェイドグループの有する様々な情報やプレスルーム等を活用し、コンテンツの魅力向上を図って行きます。加えてサンキュ！はオンラインメディアとしても一定の存在感を誇っており、雑誌の記事転載に加えて200人程度のライターがオリジナル記事を投稿しているのも一つの強みになります。但し、機能性という面ではまだまだ限られており、ジェイドグループが有するシステム基盤、例えばフォローの仕組みや有料記事、商品紹介でのアフィリエイト機能など、様々な機能を導入して行けば、他のメディアとは異なる、唯一無二のオンラインメディアになる可能性が期待できます。

(3) 企業結合日

2025年6月2日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年6月2日から2026年2月28日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	50,000千円
取得の原価		50,000千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

該当事項はありません。

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

- (1) 発生したのれん  
29,499千円
- (2) 発生原因  
今後の事業展開から期待される超過収益力であります。
- (3) 償却方法及び償却期間  
5年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産および引き受けた負債の額並びにその内訳

流動資産	4,501千円
固定資産	15,999千円
資産合計	20,500千円
負債合計	-千円

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及び算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスの株式取得による企業結合)

当社は、2025年10月29日付の取締役会において、株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスの株式を取得し(以下「本株式取得」といいます)、子会社化することを決議し、2025年12月1日に同株式を取得しております。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業内容

被取得企業の名称：株式会社ロイヤル及び子会社1社  
事業の内容：シューズ、衣料品、スポーツ用品、日用雑貨等の輸入販売業

被取得企業の名称：株式会社ロイヤルロジスティクス  
事業の内容：物流請負業(3PL)、倉庫賃貸業

(2) 企業結合を行う理由

ファッション小物販売の株式会社ロイヤル(2025年12月1日付で株式会社ロイヤル資産管理に社名変更。以下「旧ロイヤル」という)は2025年5月27日、円安による仕入れコストの増加や、積極的な設備投資による借入金負担の増加などが経営を圧迫したことを主要因とし、東京地裁に民事再生法の適用を申請し、同日付で保全・監督命令を受けました。

かかるなか、弊社は旧ロイヤルの事業存続のパートナーとして紹介を受け、弊社プラットフォームを活用することによる旧ロイヤル支援について協議を重ねてきた結果として、当社がスポンサー企業として再生支援に携わることが旧ロイヤルの再建に資するものであるとともに、弊社としても、旧ロイヤルの仕入れルート及び販売網の獲得によりサービスの強化、拡充が計れると判断し、本件スポンサー契約締結に至ったものであります。

(3) 企業結合日

2025年12月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

株式会社ロイヤル : 100%

株式会社ロイヤルロジスティクス : 100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

株式会社ロイヤル : 2025年12月1日から2026年2月28日まで  
株式会社ロイヤルロジスティクス : 2025年12月1日から2026年2月28日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	882,413千円
取得の原価		882,413千円

(注) 同日付で同一の相手より2社の株式を取得しており、2社の合計で取引価格を決定していることから、取得の原価には2社の合計額を記載しております。

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

該当事項はありません。

5. 負ののれん発生益の金額、発生原因

(1) 負ののれん発生益の金額

54,174千円

なお、上記金額は取得原価の配分が完了していないため、連結財務諸表作成時点において入手可能な合理的情報に基づき暫定的な会計処理を行っております。

(2) 発生原因

企業結合時の時価純資産が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として認識しております。

6. 企業結合日に受け入れた資産および引き受けた負債の額並びにその内訳

流動資産	473,191千円
固定資産	901,056千円
資産合計	1,374,247千円
流動負債	146,877千円
固定負債	290,782千円
負債合計	437,659千円

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及び算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(共通支配下の取引等)

(株式会社マルタミの吸収合併)

2025年6月30日付で、当社の連結子会社(孫会社)である株式会社FASCINATEを存続会社、同じく当社の連結子会社(孫会社)である株式会社マルタミを消滅会社とする吸収合併を行いました。

なお、当社は2025年6月2日付で株式会社FASCINATEの全株式を当社の連結子会社であるANBUR LEAGUE株式会社に譲渡しております。

#### 1. 企業結合の概要

##### (1) 結合当事企業の名称及び事業内容

(吸収合併存続会社)

企業の名称：株式会社FASCINATE

事業の内容：紳士服・婦人服・雑貨の販売

(吸収合併消滅会社)

企業の名称：株式会社マルタミ

事業の内容：紳士服・婦人服の販売

##### (2) 企業結合日

2025年6月30日

##### (3) 企業結合の法的形式

株式会社FASCINATEを存続会社とし、株式会社マルタミを消滅会社とする吸収合併

##### (4) 結合後企業の名称

株式会社FASCINATE

##### (5) その他取引の概要に関する事項

本合併は、業務シナジー効果を最大限に引き出すためにデータベースの統合等が必要であると判断し、その目的を達成するために株式会社FASCINATEが株式会社マルタミを吸収合併することといたしました。

#### 2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行っております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

本本事務所及び営業店舗の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

なお、当該資産除去債務の一部に関しては、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連する敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を当該賃貸借契約の期間に応じて3～16年と見積もり、割引率は使用見込期間に応じて0%～1.95%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
期首残高	8,894千円	34,632千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	6,477	8,060
新規連結子会社取得に伴う増加額	51,394	117,980
時の経過による調整額	1,356	412
資産除去債務の履行による減少額	33,489	-
期末残高	34,632	161,086

(賃貸等不動産関係)

当社グループでは、岡山県岡山市に倉庫(土地を含む)を有しており、その一部を賃貸しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	-	-
期中増減額	-	648,798
期末残高	-	648,798
期末時価	-	648,798

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、当連結会計年度の主な増減額は株式会社ロイヤルロジスティクスを連結の範囲に含めたことによる増加であります。

3. 当連結会計年度末の時価は、株式会社ロイヤルロジスティクスの取得時に再生管財人が使用した不動産鑑定士による直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていないため、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。

また、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
賃貸収益	-	72,277
賃貸費用	-	40,394
差額	-	31,882

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりです。

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

(単位:千円)

	ECモール事業	プラットフォーム事業	ブランド事業	その他事業	合計	調整額 (注)1	連結損益計算書計上額
外部顧客への売上高	8,374,411	5,457,200	5,399,704	-	19,231,316	-	19,231,316
内部売上高	-	-	974,996	-	974,996	974,996	-
合計	8,374,411	5,457,200	6,374,701	-	20,206,312	974,996	19,231,316

(注)1. 調整額は事業間取引に係る未実現収益の調整であります。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

(単位:千円)

	ECモール事業	プラットフォーム事業	ブランド事業	その他事業	合計	調整額 (注)1	連結損益計算書計上額
外部顧客への売上高	7,675,259	4,471,679	6,846,963	447,596	19,441,498	-	19,441,498
内部売上高	-	-	922,157	-	922,157	922,157	-
合計	7,675,259	4,471,679	7,769,121	447,596	20,363,656	922,157	19,441,498

(注)1. 調整額は事業間取引に係る未実現収益の調整であります。

(表示方法の変更)

従来、顧客との契約から生じる収益の分解情報につきましては、「ECモール事業」「プラットフォーム事業」「ブランド事業」に区分して表示しておりましたが、当連結会計年度より、「サンキュ！」ビジネスが加わりましたので、当社の事業モデルに合わせる形で、収益認識の分解情報を「ECモール事業」「プラットフォーム事業」「ブランド事業」「その他事業」の区分に変更しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」4. 会計方針に関する事項(5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載しております。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等

顧客からの契約から生じた債権及び契約負債の期首残高及び期末残高は、以下のとおりです。

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

(単位:千円)

		当連結会計年度	
		期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	売掛金	834,839	1,722,315
	受取手形	64,713	30,297
	電子記録債権	18,256	25,173
契約負債		73,401	281,652

契約負債は、主に商品の納品前に顧客から受け取った前受金のほか、当社グループが運営するポイント制度に係る顧客に付与したポイントであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、73,401千円であります。

契約負債の増減は、前受金の受け取り及びポイント付与による増加と収益認識による減少であります。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

(単位:千円)

		当連結会計年度	
		期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	売掛金	1,722,315	2,397,719
	受取手形	30,297	20,271
	電子記録債権	25,173	208,634
契約負債		281,652	252,896

契約負債は、主に商品の納品前に顧客から受け取った前受金のほか、当社グループが運営するポイント制度に係る顧客に付与したポイントであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、281,652千円であります。

契約負債の増減は、前受金の受け取り及びポイント付与による増加と収益認識による減少であります。

残存履行義務に配分した取引金額

当社及び連結子会社では、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。また顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	ECモール事業	プラットフォーム事業	ブランド事業	その他事業	合計	調整額 (注)1	連結損益計算書計上額
外部顧客への売上高	8,374,411	5,457,200	5,399,704	-	19,231,316	-	19,231,316
内部売上高	-	-	974,996	-	974,996	974,996	-
合計	8,374,411	5,457,200	6,374,701	-	20,206,312	974,996	19,231,316

(注)1. 調整額は事業間取引に係る未実現収益の調整であります。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客売上高のうち、売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	ECモール事業	プラットフォーム事業	ブランド事業	その他事業	合計	調整額 (注)1	連結損益計算書計上額
外部顧客への売上高	7,675,259	4,471,679	6,846,963	447,596	19,441,498	-	19,441,498
内部売上高	-	-	922,157	-	922,157	922,157	-
合計	7,675,259	4,471,679	7,769,121	447,596	20,363,656	922,157	19,441,498

(注)1. 調整額は事業間取引に係る未実現収益の調整であります。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客売上高のうち、売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

(表示方法の変更)

従来、顧客との契約から生じる収益の分解情報につきましては、「ECモール事業」「プラットフォーム事業」「ブランド事業」に区分して表示しておりましたが、当連結会計年度より、「サンキュ！」ビジネスが加わりましたので、当社の事業モデルに合わせる形で、収益認識の分解情報を「ECモール事業」「プラットフォーム事業」「ブランド事業」「その他事業」の区分に変更しております。

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)  
該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

当社グループは、靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】**

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

当社グループは、靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

当社グループは、靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

前連結会計年度(自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)

当社グループは、靴を中心としたファッション関連商品等の販売、企画、仕入事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	田中裕輔	-	-	当社代表取締役	(被所有)直接7.2	-	新株予約権の権利行使(注)	30,000	-	-

(注) 2014年11月4日及び2015年11月24日開催の臨時株主総会に基づき付与された第3回及び第5回新株予約権の当連結会計年度における権利行使によるものです。なお、取引金額欄は当連結会計年度における新株予約権の権利行使による払込金額を記載しております。

当連結会計年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	田中裕輔	-	-	当社代表取締役	(被所有)直接9.9	-	新株予約権の権利行使(注)1	133,000	-	-
							譲渡制限付株式の付与(注)2	297,000	-	-
役員	高志成俊	-	-	当社取締役	(被所有)直接0.5	-	譲渡制限付株式の付与(注)2	47,520	-	-

(注) 1. 2015年11月24日開催の臨時株主総会に基づき付与された第5回新株予約権の当連結会計年度における権利行使によるものです。なお、取引金額欄は当連結会計年度における新株予約権の権利行使による払込金額を記載しております。

2. 譲渡制限付株式報酬制度に伴う金銭報酬債権の現物出資によるものです。自己株式の処分価額は、2025年5月28日（取締役会決議日の直前営業日）の東京証券取引所における、当社の普通株式の終値である1,188円としております

(開示対象特別目的会社関係)

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
1株当たり純資産額	555円70銭	725円64銭
1株当たり当期純利益	55円10銭	154円62銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	52円86銭	151円61銭

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当連結会計年度 (2026年2月28日)
純資産の部の合計額(千円)	6,392,885	8,560,767
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	917,294	1,043,218
(うち新株予約権(千円))	(2,920)	(2,344)
(うち非支配株主持分(千円))	(914,374)	(1,040,874)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	5,475,590	7,517,549
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	9,853,528	10,359,937

2. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当連結会計年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	565,050	1,570,933
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	565,050	1,570,933
普通株式の期中平均株式数(株)	10,255,324	10,159,945
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	435,147	201,621
(うち新株予約権(株))	(435,147)	(201,621)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

(株式付与E S O P信託の導入)

当社は、2026年4月1日開催の取締役会において、当社および当社の一部子会社（以下「対象子会社」）の従業員（以下「対象従業員」）に対して、従業員インセンティブプラン「株式付与E S O P信託」（以下「本制度」）を導入することを決議いたしました。

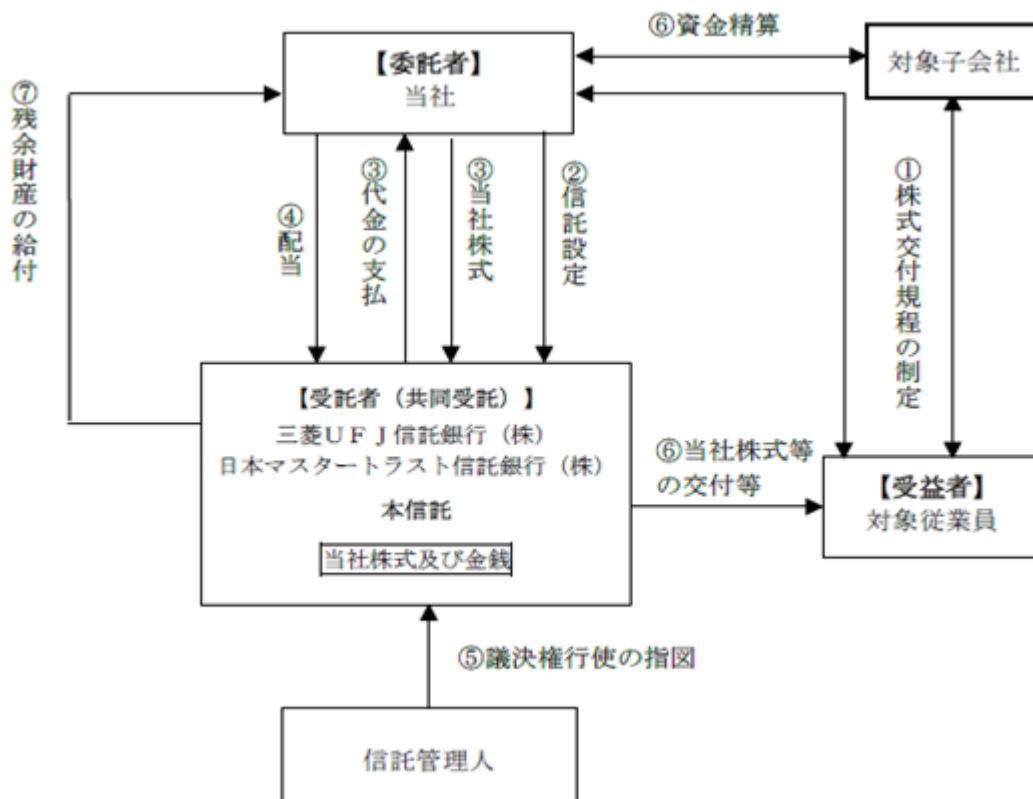
1. 本制度の導入の目的

対象従業員に対して当社グループの企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めるとともに、当社および対象子会社において優秀な人材の確保および長期定着（リテンション）を図ることを目的としております。

2. 本制度の概要

本制度は、米国のE S O P制度を参考にした従業員インセンティブプランであり、E S O P信託が取得した当社株式および当社株式の換価処分金相当額の金銭を、予め定める株式交付規程に基づき、一定の要件を充足する対象従業員に交付および給付するものです。なお、当該信託が取得する当社株式の取得資金は全額当社および対象子会社が拠出するため、対象従業員の負担はありません。本制度の導入に伴い、当社は300,000株（441,900,000円）の自己株式を当該信託に対して割当ててことを決議しております。

3. 本制度の仕組み



4. 信託契約の概要

信託の種類	: 特定単独運用の金銭信託以外の金銭の信託（他益信託）
信託の目的	: 対象従業員に対するインセンティブの付与
委託者	: 当社
受託者	: 三菱UFJ信託銀行株式会社（共同受託者：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
受益者	: 対象従業員のうち受益者要件を充足する者
信託管理人	: 当社と利害関係のない第三者
信託契約日	: 2026年4月15日
信託の期間	: 2026年4月15日～2033年4月末日
制度開始日	: 2026年4月15日
議決権行使	: 受託者は受益者候補の意思を反映した信託管理人の指図に従い、当社株式の議決権を行使する
取得株式の種類	: 当社普通株式
取得株式の総額	: 441,900,000円
株式の取得方法	: 当社（自己株式処分）からの取得
帰属権利者	: 当社
残余財産	: 帰属権利者である当社が受領できる残余財産は、信託留保金の範囲内とする

5. 本自己株式処分の概要

処分期日	: 2026年4月20日
処分する株式の種類及び数	: 普通株式 300,000株
処分価額	: 1株につき1,473円
処分総額	: 441,900,000円
処分先	: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（株式付与E S O P信託口）
その他	: 本自己株式処分については、金融商品取引法による臨時報告書を提出しております。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	42,864	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	663,416	442,215	1.00	2027年～2030年
合計	706,280	442,215	-	-

(注)1. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

(注)2. 平均利率については、期中平均借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	136,215	136,000	170,000	-

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における半期情報等

(累計期間)	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高(千円)	8,914,773	19,441,498
税金等調整前中間(当期)純利益(千円)	1,105,907	2,551,694
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益(千円)	573,139	1,570,933
1株当たり中間(当期)純利益(円)	57.51	154.62

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,257,021	758,777
売掛金	533,384	773,725
商品	510,730	460,688
貯蔵品	47,527	34,149
前渡金	43,838	27,161
前払費用	167,860	249,087
未収入金	₳ 1,028,031	₳ 2,269,630
関係会社短期貸付金	-	20,000
その他	32,147	24,407
流動資産合計	3,620,543	4,617,628
固定資産		
有形固定資産		
建物		
減価償却累計額	76,540	94,300
建物(純額)	182,704	210,928
機械及び装置		
減価償却累計額	33,708	39,258
機械及び装置(純額)	33,231	27,681
工具、器具及び備品		
減価償却累計額	242,618	264,270
工具、器具及び備品(純額)	155,020	288,601
建設仮勘定	-	25,828
その他	12,151	12,151
減価償却累計額	12,151	12,151
その他(純額)	0	0
有形固定資産合計	370,955	553,039
無形固定資産		
商標権	48	9
ソフトウェア	171,536	197,987
のれん	73,335	29,001
顧客関連資産	7,800	-
無形固定資産合計	252,720	226,998
投資その他の資産		
投資有価証券	0	0
関係会社株式	3,963,700	4,631,113
長期前払費用	82,521	401,471
長期貸付金	10,000	9,368
関係会社長期貸付金	1,068,000	2,158,000
敷金及び保証金	899,112	914,325
繰延税金資産	277,391	266,316
貸倒引当金	-	9,368
投資その他の資産合計	6,300,724	8,371,227
固定資産合計	6,924,400	9,151,264
資産合計	10,544,944	13,768,893

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	37,242	55,294
受託販売預り金	3 1,889,315	3 1,580,119
1年内返済予定の長期借入金	42,864	-
関係会社短期借入金	2,000,000	4,100,000
未払金	887,757	858,290
未払費用	111,516	98,549
未払法人税等	160,098	331,832
預り金	6,397	18,881
賞与引当金	15,450	6,270
役員賞与引当金	17,665	31,688
契約負債	81,481	120,667
その他	21,632	140,729
<b>流動負債合計</b>	<b>5,271,421</b>	<b>7,342,323</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	221,416	-
<b>固定負債合計</b>	<b>221,416</b>	<b>-</b>
<b>負債合計</b>	<b>5,492,837</b>	<b>7,342,323</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	50,000	50,000
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	1,237,258	1,237,258
その他資本剰余金	2,075,662	1,854,603
<b>資本剰余金合計</b>	<b>3,312,920</b>	<b>3,091,861</b>
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
繰越利益剰余金	3,892,878	4,796,891
<b>利益剰余金合計</b>	<b>3,892,878</b>	<b>4,796,891</b>
自己株式	2,206,611	1,514,527
<b>株主資本合計</b>	<b>5,049,187</b>	<b>6,424,225</b>
新株予約権	2,920	2,344
<b>純資産合計</b>	<b>5,052,107</b>	<b>6,426,570</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,544,944</b>	<b>13,768,893</b>

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当事業年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
売上高	8,254,904	7,953,099
売上原価		
商品期首棚卸高	413,894	510,730
当期商品仕入高	793,351	694,850
合計	1,207,245	1,205,581
商品期末棚卸高	510,730	460,688
商品売上原価	1,696,515	1,744,893
売上総利益	7,558,389	7,208,206
販売費及び一般管理費	2,696,404	2,610,843
営業利益	594,354	1,197,362
営業外収益		
受取利息	3,19,320	3,25,009
受取配当金	2,212	10,625
物品売却益	1,623	2,559
業務受託料	3,6,600	3,6,600
為替差益	-	47,554
助成金収入	1,159	623
その他	1,589	390
営業外収益合計	32,503	93,362
営業外費用		
支払利息	3,18,661	3,31,571
自己株式取得費用	3,768	253
為替差損	2,401	-
営業外費用合計	24,830	31,824
経常利益	602,027	1,258,899
特別利益		
固定資産売却益	7	928
投資有価証券売却益	1,079	-
抱合せ株式消滅差益	1,768	-
短期売買利益受贈益	-	80,957
特別利益合計	2,855	81,886
特別損失		
固定資産除却損	873	1,026
投資有価証券評価損	-	7,500
関係会社株式評価損	-	1,000
支払補償費	4,500	-
その他	575	-
特別損失合計	5,948	9,526
税引前当期純利益	598,933	1,331,259
法人税、住民税及び事業税	203,451	416,171
法人税等調整額	16,252	11,074
法人税等合計	187,199	427,245
当期純利益	411,734	904,013

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	50,000	1,237,258	2,122,391	3,359,649	3,481,143	3,481,143	934,316	5,956,476
当期変動額								
当期純利益	-	-	-	-	411,734	411,734	-	411,734
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	1,353,177	1,353,177
自己株式の処分	-	-	46,729	46,729	-	-	80,883	34,154
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	46,729	46,729	411,734	411,734	1,272,294	907,289
当期末残高	50,000	1,237,258	2,075,662	3,312,920	3,892,878	3,892,878	2,206,611	5,049,187

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	93	93	3,089	5,959,659
当期変動額				
当期純利益	-	-	-	411,734
自己株式の取得	-	-	-	1,353,177
自己株式の処分	-	-	-	34,154
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	93	93	169	262
当期変動額合計	93	93	169	907,552
当期末残高	-	-	2,920	5,052,107

当事業年度（自 2025年3月1日 至 2026年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	50,000	1,237,258	2,075,662	3,312,920	3,892,878	3,892,878	2,206,611	5,049,187	
当期変動額									
当期純利益	-	-	-	-	904,013	904,013	-	904,013	
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	77,187	77,187	
自己株式の処分	-	-	221,058	221,058	-	-	769,270	548,212	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期変動額合計	-	-	221,058	221,058	904,013	904,013	692,083	1,375,038	
当期末残高	50,000	1,237,258	1,854,603	3,091,861	4,796,891	4,796,891	1,514,527	6,424,225	

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	-	-	2,920	5,052,107
当期変動額				
当期純利益	-	-	-	904,013
自己株式の取得	-	-	-	77,187
自己株式の処分	-	-	-	548,212
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	575	575
当期変動額合計	-	-	575	1,374,462
当期末残高	-	-	2,344	6,426,570

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価方法

(1) 子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

・市場価格のない株式等以外のもの

当事業年度末の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

(3) デリバティブ

時価法によっております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品 月次総平均法に基づく原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 貯蔵品 最終仕入原価法に基づく原価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8年～18年

機械及び装置 12年

工具、器具及び備品 2年～10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

商標権 10年

自社利用のソフトウェア 5年

顧客関連資産 5年

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度末に負担すべき額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

取締役等に対する業績連動型賞与の支払いに備えるため、取締役等に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

5. のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果が発現すると見積もられる期間にわたって均等償却を行っております。ただし、金額的に重要性のないものについては、発生年度に一括償却をしております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. 収益及び費用の計上基準

当社は、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換によって受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

なお、履行義務の対価は、概ね3か月以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

当社の主要な事業における主な履行義務の内容および収益を認識する時点は、以下のとおりです。

(1) 仕入れ商品等の販売に関する収益

当社グループは買取商品等を当社が運営するECサイト「LOCONDO.jp」を始め複数の販売チャネルでユーザーから注文を受けて販売を行っており、ユーザーに対して当該商品等の引き渡しを行う義務を負っております。

これらの商品販売取引では「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取り扱いを適用し、出荷時に収益を認識しております。

これら各種の履行義務は、顧客にとって単独で又は他の資源と組み合わせると便益が得られるものではなく、受託商品の販売活動の中で発生する一連のサービスであり、相互関連性の高いサービスとなります。そのため、これら各種の履行義務を一体とし、委託者の代理人としてユーザーに対して商品を販売するという単一の履行義務を取り扱うこととしております。

(2) 受託商品の販売（ECサイト運営受託業務等を含む）に関する収益

当社は顧客（ブランド）から商品の委託を受け、当社が運営するECサイト「LOCONDO.jp」を始め複数の販売チャネルでユーザーから注文を受けて販売を行っており、顧客（ブランド）から受託販売手数料を受領しております。

これらの受託商品販売取引においても、出荷時に顧客（ブランド）からユーザーへの商品の引き渡し義務が履行されるため、出荷時に収益を認識しております。なお、ユーザーとの契約において約束された対価から、値引き、リベート、返品及び販売促進費等の名目で販売チャネルに支払う対価の一部を控除しております。

8. その他財務諸表作成のための基礎となる事項

グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

（重要な会計上の見積り）

1. 棚卸資産の評価

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

（単位：千円）

	前事業年度	当事業年度
商品	510,730	460,688

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

棚卸資産は、取得原価をもって貸借対照表価額とし、期末における正味売却価額が取得原価よりも下落している場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額としております。また、一定期間を超えて保有する棚卸資産については、収益性の低下の事実を反映するために、過去の販売状況及び商品群ごとのライフサイクル等に基づき決定した方針により定期的に帳簿価額を切り下げております。一定期間については仕入時期に応じた商品群のライフサイクルを勘案して決定しており、また、取得価額の規則的な切下げには、商品群ごとのシーズン経過による陳腐化や値下げ販売による収益性の低下が一定の割合で発生するという仮定が含まれています。しかし、当初想定できなかった需要変動や経済情勢等により、前提となるライフサイクルに変更が生じる場合、翌事業年度の財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（表示方法の変更）

該当事項はありません。

（追加情報）

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

1 当座貸越契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行(前事業年度は4行)と当座貸越契約を締結しております。当座貸越契約に基づく借入実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
当座貸越極度額	8,000,000千円	8,200,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	8,000,000	8,200,000

2 保証債務

関係会社の借入金に対して、次のとおり保証を行っております。

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
RBKJ株式会社	442,000千円	442,000千円
計	442,000	442,000

(注) 子会社であるRBKJにて上記金額を運転資金として借入しておりますがその債務につきまして当社は債務保証してあります。

関係会社の為替予約に対して、次のとおり保証を行っております。

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
株式会社ロイヤル	- 百万USドル	0.7百万USドル
計	-	0.7

3 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

当該関係会社に対する金銭債権及び金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
短期金銭債権	717,932千円	1,725,038千円
短期金銭債務	90,978	111,413

(損益計算書関係)

- 1 期末棚卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当事業年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
	43,810千円	57,558千円

- 2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度40.37%、当事業年度42.66%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度59.63%、当事業年度57.34%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当事業年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
給料及び手当	1,296,656千円	881,955千円
荷造運搬費	1,463,183	1,384,040
広告宣伝費	503,712	347,646
地代家賃	1,261,895	1,014,746
決済手数料	623,932	603,184
減価償却費	129,157	118,794
賞与引当金繰入額	15,450	6,270
役員賞与引当金繰入額	17,665	31,688
貸倒引当金繰入額	-	9,368

3 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2024年3月1日 至 2025年2月28日)	当事業年度 (自 2025年3月1日 至 2026年2月28日)
受取利息	16,290千円	19,897千円
業務受託料	6,600千円	6,600千円
支払利息	8,493千円	30,939千円

(有価証券関係)

前事業年度(2025年2月28日)

関係会社株式(子会社株式の貸借対照表計上額3,963,700千円)は、市場価格のない株式のため時価を記載しておりません。

当事業年度(2026年2月28日)

関係会社株式(子会社株式の貸借対照表計上額4,631,113千円)は、市場価格のない株式のため時価を記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
繰延税金資産		
棚卸資産評価損	27,398千円	31,516千円
フリーレント	166,832	140,904
譲渡制限付株式	55,169	65,269
敷金償却	29,005	37,333
その他	43,591	48,727
繰延税金資産小計	321,997	323,751
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	41,253	57,137
評価性引当額小計	41,253	57,137
繰延税金資産合計	280,744	266,614
繰延税金負債		
負債調整勘定	654	297
顧客関連資産	2,698	-
繰延税金負債合計	3,352	297
繰延税金資産の純額	277,391	266,316

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2025年2月28日)	当事業年度 (2026年2月28日)
法定実効税率	34.59%	34.59%
(調整)		
評価性引当額の増減	6.14%	1.19%
のれん償却	2.74%	1.15%
住民税均等割	0.76%	0.34%
所得拡大促進税制による税額控除	- %	4.25%
その他	0.69%	0.94%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.26%	32.09%

3. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

4. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業計年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年3月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を34.5%から35.4%に変更して計算しております。

なお、この税率変更による影響は軽微であります。

(企業結合等関係)

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額	当期末取得原価
有形固定資産							
建物	182,704	46,441	-	18,217	210,928	94,300	305,229
機械及び装置	33,231	-	-	5,549	27,681	39,258	66,940
工具、器具及び備品	155,020	159,670	71	26,018	288,601	264,270	552,871
車両運搬具	0	-	-	-	0	12,151	12,151
建設仮勘定	-	25,828	-	-	25,828	-	25,828
計	370,955	231,940	71	49,785	553,039	409,981	963,021
無形固定資産							
商標権	48	-	-	38	9	-	-
ソフトウェア	171,536	162,398	74,777	61,169	197,987	-	-
のれん	73,335	-	-	44,334	29,001	-	-
顧客関連資産	7,800	-	-	7,800	-	-	-
計	252,720	162,398	74,777	113,342	226,998	-	-
長期前払費用	82,521	398,061	79,110	-	401,471	-	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	本社及び物流倉庫の設備	46,441千円
工具、器具及び備品	本社の備品	159,670
建設仮勘定	物流倉庫の設備	25,828
ソフトウェア	E C基幹システムの増強	162,398

2. 長期前払費用の期間配分は減価償却費とは性格が異なるため、償却累計額及び当期償却額の算定に含めておりません。

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額 (目的使用)	当期減少額 (その他)	当期末残高
賞与引当金	15,450	66,350	75,530	-	6,270
役員賞与引当金	17,665	31,688	17,665	-	31,688
貸倒引当金	-	9,368	-	-	9,368

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内
基準日	毎年2月末日
剰余金の配当の基準日	毎年8月31日 毎年2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行く。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載しております。 <a href="https://jade-group.jp/ir">https://jade-group.jp/ir</a>
株主に対する特典	株主優待制度 (1) 対象となる株主様 毎年2月末日現在の株主名簿に記載された株主様のうち、1単元(100株)以上を保有されている株主様を対象といたします。 (2) 優待の内容 1単元(100株)以上保有されている株主様に、当社の運営する靴とファッションの通販サイト「LOCOND0.jp」でご利用いただけるクーポンを、2月末時点の保有株式数に応じて、贈呈いたします。 ・100株以上 5,000円相当 ・300株以上かつ1年以上保有 10,000円相当(5,000円×2回) ・500株以上かつ2年以上保有 15,000円相当(5,000円×3回) ・1,000株以上かつ3年以上保有 20,000円相当(5,000円×4回)

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は次に掲げる権利以外の権利を行使することはできません。

- ・会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- ・会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- ・株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付資料並びに確認書

事業年度 第15期（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）2025年5月30日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書

事業年度 第15期（自 2024年3月1日 至 2025年2月28日）2025年5月30日関東財務局長に提出

(3) 半期報告書、半期報告書の確認書

第16期中（自 2025年3月1日 至 2025年8月31日）2025年10月15日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2025年5月21日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）に基づく臨時報告書であります。

2025年5月29日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2（譲渡制限付株式報酬としての自己株式処分）に基づく臨時報告書であります。

2025年5月30日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

2025年10月31日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）に基づく臨時報告書であります。

2025年12月1日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）に基づく臨時報告書であります。

2026年4月1日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2（株式付与E S O P信託導入に伴う自己株式処分）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年 5月27日

ジェイドグループ株式会社

取締役会 御中

UHY東京監査法人

東京都品川区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 谷田 修一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 安河内 明

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているジェイドグループ株式会社の2025年3月1日から2026年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ジェイドグループ株式会社及び連結子会社の2026年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

棚卸資産（「商品」）の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社グループの当連結会計年度の連結貸借対照表における「商品」の帳簿価額は2,746,567千円であり、総資産の17.6%を占めている。また、注記事項（連結損益計算書関係） 1に記載のとおり、当連結会計年度末の商品等の簿価切下額は251,116千円であり、連結損益計算書の売上原価（純額）に含まれている。</p> <p>注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)棚卸資産の評価基準及び評価方法、並びに（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、商品の連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、期末における正味売却価額が取得原価を下回っている場合には、当該正味売却価額をもって連結貸借対照表価額としている。また、一定期間を超えて保有するたな卸資産（商品）については、収益性の低下の事実を反映させるために、商品群ごとの過去の販売実績及びライフサイクル等に基づき決定した方針により定期的に帳簿価額を切下げの方法を採用している。</p> <p>ここに言う一定期間については仕入時期に応じた商品群のライフサイクルを勘案して決定しており、また、取得価額の規則的な切下げには、商品群ごとのシーズン経過による陳腐化や値下げ販売による収益性の低下が一定の割合で発生するという経営者の仮定が含まれている。</p> <p>以上から、当監査法人は、棚卸資産（商品）の評価が当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、商品の評価の妥当性を検討するに当たり、主として、以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の評価に関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価した。</li> <li>・経営者が採用した商品の評価方法が、会計基準に照らして合理的であるか評価した。</li> <li>・商品の評価について、経営者が採用した主要な仮定を理解するため、商品群のライフサイクルや規則的な帳簿価額の切下げ方法について経営者等に質問した。</li> <li>・商品群ごとのライフサイクルを確かめるために仕入時期に対応した商品群ごとの消化率を再計算するとともに過年度に評価を切り下げた在庫のその後の残高の推移を確認し、経営者の想定する期間で残高が漸減していることを確かめた。</li> <li>・過年度に帳簿価額を切り下げた商品の直近の販売価格と切り下げ後の帳簿価格とを比較した。</li> </ul>

株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスの取得に係る会計処理	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>連結財務諸表注記（企業結合等関係）に記載のとおり、会社は2025年12月1日に株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスの全株式を取得している。</p> <p>当該企業結合は、ファッション小物販売の株式会社ロイヤル（2025年12月1日付で株式会社ロイヤル資産管理に社名変更。以下「旧ロイヤル」という）が民事再生法の適用をうけたことに伴い、スポンサー契約締結のもと、旧ロイヤルによる会社分割（新設分割）により旧ロイヤルの一部事業を承継する新設会社としての株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスの全株式を取得したものであり、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号）に基づき会計処理を行った結果、負ののれん発生益54百万円を特別利益として計上している。</p> <p>当監査法人は、上記2社の株式取得による企業結合が旧ロイヤルの民事再生法適用に伴う一連の組織再編の中で実施されたものであり、会社にとって通例ではない重要な取引であるため、株式取得から連結財務諸表の作成に至るまでの一連の会計処理が適切に行われることに注意を払う必要があると考えた。</p> <p>また、負ののれんが生じると見込まれる場合には、すべての識別可能資産及び負債が把握されているか、また、それらに対する取得原価の配分が適切に行われているかどうか見直すこととされており、当該企業結合取引により取得した識別可能な資産及び負債については、その時価の測定方法の選択や使用した前提には経営者による主観的な判断を伴う。</p> <p>以上から、当監査法人は、株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスの取得に係る会計処理の妥当性の検討が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスの取得に係る会計処理の妥当性を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取引の目的及び取得価額決定の経緯を理解するために経営者への質問を実施した。</li> <li>・本件企業結合が旧ロイヤルによる新設分割により旧ロイヤルの一部事業を承継する新設会社としての株式会社ロイヤル及び株式会社ロイヤルロジスティクスの全株式を取得するという一連の組織再編であることをふまえ、これら2社の取得を一体として取り扱うことの適切性を検討した。</li> <li>・取得した識別可能な資産及び引き受けた負債について、入出金記録や承継される契約書等の関連証憑と証憑突合し、これらが取引の実態を反映して適切に分類され、計上されているか否かを検討した。</li> <li>・負ののれん発生益の算定資料を閲覧し、算定方法について会計基準等を踏まえて検討した。</li> </ul>

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 内部統制監査 >

##### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ジェイドグループ株式会社の2026年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、ジェイドグループ株式会社が2026年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

## 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## < 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等 (3)【監査の状況】に記載されている。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2026年5月27日

ジェイドグループ株式会社

取締役会 御中

UHY東京監査法人

東京都品川区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 谷田 修一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 安河内 明

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているジェイドグループ株式会社の2025年3月1日から2026年2月28日までの第16期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ジェイドグループ株式会社の2026年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

## 棚卸資産(「商品」)の評価

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項(棚卸資産(「商品」)の評価)と同一内容であるため、記載を省略している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場

合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないとは判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。